

2 障がい児調査

(1) 回答者の基本的な属性

ア 回答者が主なケア提供者かどうか

問1 あなたは、お子さまのケアを主にしている人ですか。(○は1つ)

回答者は、97.1%が「主に(ケア)している人」である。

<回答者が主なケア提供者かどうか>

(%)

	主にしている人	手伝っている人	それ以外
n=209	97.1	2.4	0.5

イ 回答者と対象者の続柄

問2 あなたは、お子さまからみて、どなたにあたりますか。(○は1つ)

対象者からみた回答者の続柄は、「母親」が92.3%、「父親」が6.7%である。

<回答者と対象者の続柄>

(%)

	母親	父親	きょうだい	その他の親族	その他
n=209	92.3	6.7	—	—	1.0

ウ 回答者の性別

問3 あなたの性別はどちらですか。(○は1つ)

回答者の性別は、「女性」が92.8%である。

<回答者の性別>

(%)

	男性	女性
n=209	7.2	92.8

エ 回答者の年齢

問4 あなた(ご回答者様)の年齢を教えてください。(8月1日現在)

回答者の年齢は、30代が19.6%、40代が63.6%、50代が15.3%で、平均年齢は44.2歳である。

<回答者の年齢>

(%)

	20代	30代	40代	50代	60代	無回答	平均
n=209	0.5	19.6	63.6	15.3	0.5	0.5	44.2歳

(2) 対象者の基本的な属性

ア 対象者の性別

問5 お子さまの性別はどちらですか。(〇は1つ)

対象者の性別は、「男性」が64.1%、「女性」が35.9%である。

障がいの種類別にみると、身体障がいでは「男性」・「女性」同数だが、知的障がいでは「男性」が67.2%、「女性」が32.8%と、女性が男性のほぼ倍となっている。

＜対象者の性別＞ (%)

		男性	女性
対象者全員	n=209	64.1	35.9

【障がいの種類別集計】

障がいの種類	n	男性 (%)	女性 (%)
身体障がい	n=54	50.0	50.0
知的障がい	n=137	67.2	32.8
精神障がい	n=27	70.4	29.6
難病	n=23	47.8	52.2
発達障がい	n=107	72.9	27.1
高次脳機能障がい	n=4	75.0	25.0
無回答	n=4	25.0	75.0

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

イ 対象者の年齢

問6 お子さまの年齢を教えてください。(8月1日現在)

対象者の年齢は、6歳未満が18.7%、6～11歳が33.0%、12～14歳が16.3%、15～17歳が31.1%で、平均年齢は10.8歳である。

＜対象者の年齢＞ (%)

		6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	無回答	平均
n=209		18.7	33.0	16.3	31.1	1.0	10.8歳

ウ 対象者の居住地

問7 お子さまが住んでいる地域はどこですか。(〇は1つ)

居住地域は、「下連雀」が23.0%と最も多く、次いで「上連雀」が13.9%で続いている。

＜居住地域＞ (%)

		井口	深大寺	野崎	大沢	上連雀	下連雀	牟礼	新川	北野	中原	井の頭	無回答
n=209		8.1	5.7	3.3	9.1	13.9	23.0	7.7	7.2	5.3	9.6	6.2	1.0

エ 対象者の住居形態

問8 お子さまの現在の住居は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

住居形態は、「持ち家(一戸建て)」が 47.4%、「持ち家(マンション)」が 20.6%で、持ち家が約7割を占めている。

＜住居形態＞

(%)

	持ち家 (一戸建て)	持ち家 (マンション)	借家、民間 賃貸マンシ ョン(UR都 市機構等の 賃貸住宅を 含む)	民間賃 貸アパ ート(木 造など)	都営・市 営住宅	グルー プホー ム	社宅・寮	その他	無回答
n=209	47.4	20.6	17.7	5.3	3.3	0.5	2.9	1.0	1.4

オ 対象者の同居者

問9 お子さまは、どなたといっしょに暮らしていますか。(○はいくつでも)

対象者は、98.6%が「母親」と、88.5%が「父親」と暮らしている。また、69.9%は「きょうだい」と同居している。

＜対象者の同居者＞

(%)

	母親	父親	きょうだい	その他の親族	その他
n=209	98.6	88.5	69.9	6.7	1.0

カ 世帯の年間収入額

問10 あなたのお宅全体の、昨年1年間の収入は、おいくらぐらいになりますか。一時的な臨時収入は除いてお答えください。(○は1つ)

世帯の年間収入額は、「500～1,000万円未満」が 33.5%を占めている。

＜世帯の年間収入額＞

(%)

	120万円 未満	120～ 300万円 未満	300～ 500万円 未満	500～ 1,000万円 未満	1,000～ 2,000万円 未満	2,000万円 以上	わからない	答えたく ない	無回答
n=209	3.8	6.7	17.7	33.5	21.5	0.5	5.7	5.7	4.8

(3) 障がいの状況

ア 所持している手帳等の種類

問 11 お子さまがお持ちの手帳等は、どれですか。(〇はいくつでも)

対象者のうち、身体障害者手帳を所持している人は 25.8%、愛の手帳を所持している人は 65.6%、精神障害者保健福祉手帳もしくは自立支援医療費(精神通院)支給認定受給者証を所持している人は 12.9%、特定医療費(指定難病)受給者証、マル都医療券もしくは小児慢性特定疾病医療受給者証を所持している人は 11.0%である。

＜所持している手帳等の種類＞ (%)

身体障がい	身体障害者手帳1級	身体障害者手帳2級	身体障害者手帳3級	身体障害者手帳4級	身体障害者手帳5級	身体障害者手帳6級	
	n=209	10.0	4.8	6.2	2.4	1.4	
知的障がい	愛の手帳1度	愛の手帳2度	愛の手帳3度	愛の手帳4度			
	n=209	0.5	14.4	16.3	34.4	65.6	
精神障がい	精神障害者保健福祉手帳1級	精神障害者保健福祉手帳2級	精神障害者保健福祉手帳3級	自立支援医療費(精神通院)支給認定受給者証			
	n=209	—	1.9	3.3	9.6	12.9(手帳所持・精神通院の重複あり)	
難病	特定医療費(指定難病)受給者証	マル都医療券	小児慢性特定疾病医療受給者証				無回答
	n=209	1.9	0.5	9.6	11.0(指定難病・マル都医療券・小児特定疾病の重複あり)		

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

問 13 で尋ねている発達障がい・高次脳機能障がいの状況も含めて、障がいの重複状況をみると、身体障がい(身体障害者手帳所持者)のうち知的障がい(愛の手帳所持者)もある人は 27.8%である。また、知的障がい(愛の手帳所持者)のうち発達障がいと診断されたことがある人は 61.3%である。

＜障がいの重複状況＞ (%)

	身体障がい	知的障がい	精神障がい	難病	発達障がい	高次脳機能障がい	無回答
対象者全員 n=209	25.8	65.6	12.9	11.0	51.2	1.9	1.9
身体障がい n=54		27.8	1.9	20.4	22.2	1.9	—
知的障がい n=137	10.9		3.6	6.6	61.3	2.2	—
精神障がい n=27	3.7	18.5		—	70.4	—	—
難病 n=23	47.8	39.1	—		17.4	8.7	—
発達障がい n=107	11.2	78.5	17.8	3.7		2.8	—
高次脳機能障がい n=4	25.0	75.0	—	50.0	75.0		—
無回答 n=4	—	—	—	—	—	—	—

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

イ 身体障害者手帳に記載されている障がいの種類

副問 11-1 手帳に記載されている障がいは、次のうちどれですか。(○はいくつでも)

※ 問 11 で「身体障害者手帳を持っている(選択肢 1~6)」と回答した人

身体障害者手帳に記載されている障がいの種類は、「肢体不自由(上肢、下肢、体幹、運動機能障害など)」が 51.9%と最も多く、「内部機能障害(心臓、腎臓、肝臓、呼吸器、大腸など)」が 31.5%で続いている。

＜身体障害者手帳に記載されている障がいの種類＞

(%)

	視覚障害	聴覚障害	平衡機能障害	音声・言語・そしゃく機能障害	肢体不自由(上肢、下肢、体幹、運動機能障害など)	内部機能障害(心臓、腎臓、肝臓、呼吸器、大腸など)	無回答
n=54	11.1	13.0	—	5.6	51.9	31.5	1.9

ウ 手帳の取得時期

問 12 お子さまが、はじめて手帳を取得したのは、いつごろですか。(○は1つ)

手帳をはじめて取得したのは、「3ヶ月～2歳」が 25.8%、「3～5歳」が 33.0%、「6～8歳」が 12.9%である。

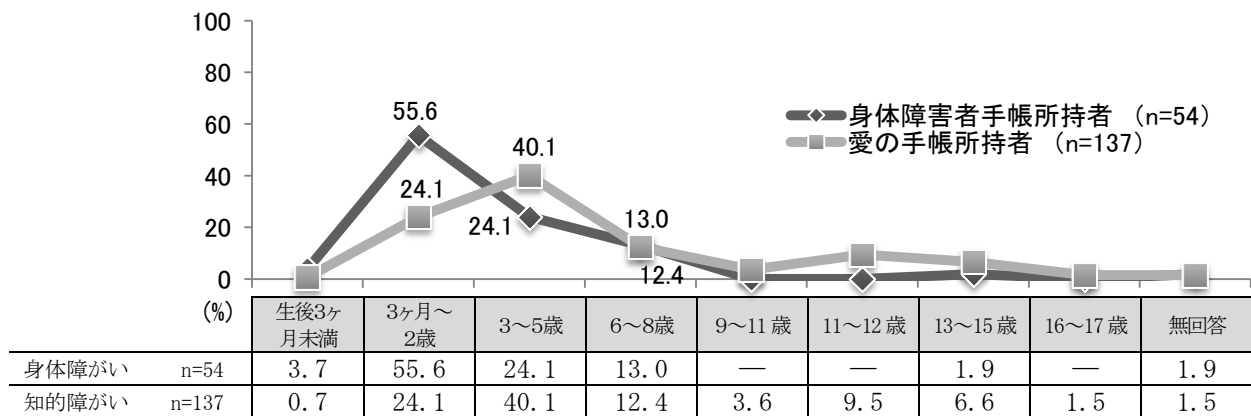
＜手帳の取得時期＞

(%)

	生後3ヶ月未満	3ヶ月～2歳	3～5歳	6～8歳	9～11歳	11～12歳	13～15歳	16～17歳	無回答
n=209	1.4	25.8	33.0	12.9	2.9	8.1	6.7	3.3	5.7

身体障害者手帳所持者についてみると、55.6%は「3ヶ月～2歳」にはじめて手帳を取得している。また、愛の手帳所持者についてみると、40.1%は「3～5歳」にはじめて手帳を取得している。

＜手帳の取得時期/身体障害者手帳所持者・愛の手帳所持者＞



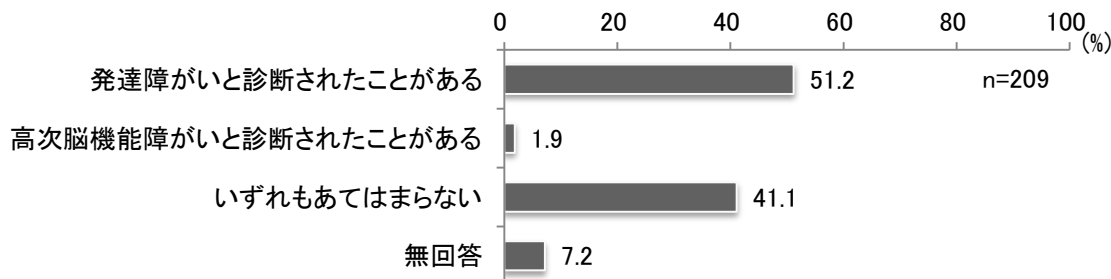
※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

エ 発達障がい・高次脳機能障がいの有無

問 13 お子さまについて、次のうち、あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

「発達障がいと診断されたことがある」人は 51.2%、「高次脳機能障がいと診断されたことがある」人は 1.9%である。

＜発達障がい・高次脳機能障がいの有無＞



オ 発達障がいの内容

副問 13-1 診断されたのは次のどれですか。(○はいくつでも)

※ 問 13 で「発達障がいと診断された(選択肢 1)」と回答した人

発達障がいの診断内容は、「自閉症(自閉症スペクトラム)」が 52.3%と最も多く、「その他の広汎性発達障がい」が 29.0%で続いている。

＜発達障がいの内容＞ (%)

	自閉症(自閉症スペクトラム)	アスペルガー症候群	その他の広汎性発達障がい	注意力欠如多動性障害(AD/HD)	学習障害(LD)	その他の発達障がい	無回答
n=107	52.3	0.9	29.0	10.3	4.7	14.0	1.9

発達障がいの診断内容の重複状況をみると、「自閉症(自閉症スペクトラム)」と回答した 56 人のうち、8 人は「その他の広汎性発達障がい」が重複している。

＜発達障がいの内容／重複の状況＞ (人)

n=107	自閉症(自閉症スペクトラム) (n=56)	アスペルガー症候群 (n=1)	その他の広汎性発達障がい (n=31)	注意力欠如多動性障害(AD/HD) (n=11)	学習障害(LD) (n=5)	その他の発達障がい (n=15)
自閉症(自閉症スペクトラム)	(56)	0	8	2	2	1
アスペルガー症候群		(1)	0	0	0	0
その他の広汎性発達障がい			(31)	3	1	0
注意力欠如多動性障害(AD/HD)				(11)	0	0
学習障害(LD)					(5)	0
その他の発達障がい						(15)

※ 重複の場合は、それぞれにカウント

カ 高次脳機能障がいの内容

副問 13-2 差し支えなければ、診断された「障がいの種類(記憶障がい、注意障がい、遂行機能障がい、社会的行動障がい等)」をご記入ください。(自由記入)

※ 問 13 で「高次脳機能障がいと診断された(選択肢 2)」と回答した人

高次脳機能障がいの診断内容としては、3件の記入(「記憶障害」「記憶障害、注意障害」「診断として「高次脳機能障害」でそれ以上細かくはなし)」があった。

(4) 健康状態・医療の状況

ア 受療状況

問 14 お子さまは、現在、医師の治療を受けていますか。(○は1つ)

約7割の人は「定期的に通院している」(70.8%)状況で、「とくに治療はしていない」人は25.8%である。障がいの種類別にみると、知的障がいでは32.8%が「とくに治療はしていない」と回答している。

<受療状況>

(%)

		定期的に通院している	自宅で訪問看護や往診を受けている	入院している	その他	とくに治療はしていない	無回答
対象者全員	n=209	70.8	0.5	1.0	0.5	25.8	1.4

【障がいの種類別集計】

身体障がい	n=54	77.8	1.9	1.9	1.9	16.7	—
知的障がい	n=137	67.2	—	—	—	32.8	—
精神障がい	n=27	92.6	—	—	—	7.4	—
難病	n=23	87.0	4.3	4.3	4.3	—	—
発達障がい	n=107	71.0	—	—	—	29.0	—
高次脳機能障がい	n=4	75.0	—	—	—	25.0	—
無回答	n=4	—	—	—	—	25.0	75.0

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

イ 医療的ケアの必要性

問 15 お子さまは、現在、次のような医療的ケアを受けていますか。(○はいくつでも)

選択肢としてあげている項目のうち最も多くの人を受けているのは「服薬管理」(27.8%)で、次いで「吸引」が4.3%で続いている。なお、何らかの医療的ケアを受けている人は、36.8%である。

<医療的ケアの必要性>

(%)

	気管切開	人工呼吸器(レスピレーター)	吸入	吸引	胃ろう・腸ろう	鼻腔経管栄養
n=209	2.9	2.4	2.9	4.3	2.4	2.9

	中心静脈栄養(IVH)	透析	在宅酸素	カテーテル留置	ストマ(人工肛門・人工膀胱)	服薬管理
n=209	0.5	0.5	2.9	—	1.9	27.8

[再掲]

	その他	医療的ケアは受けていない	無回答	何らかの医療的ケアを受けている	医療的ケアは受けていない
n=209	5.7	52.2	11.0	36.8	52.2

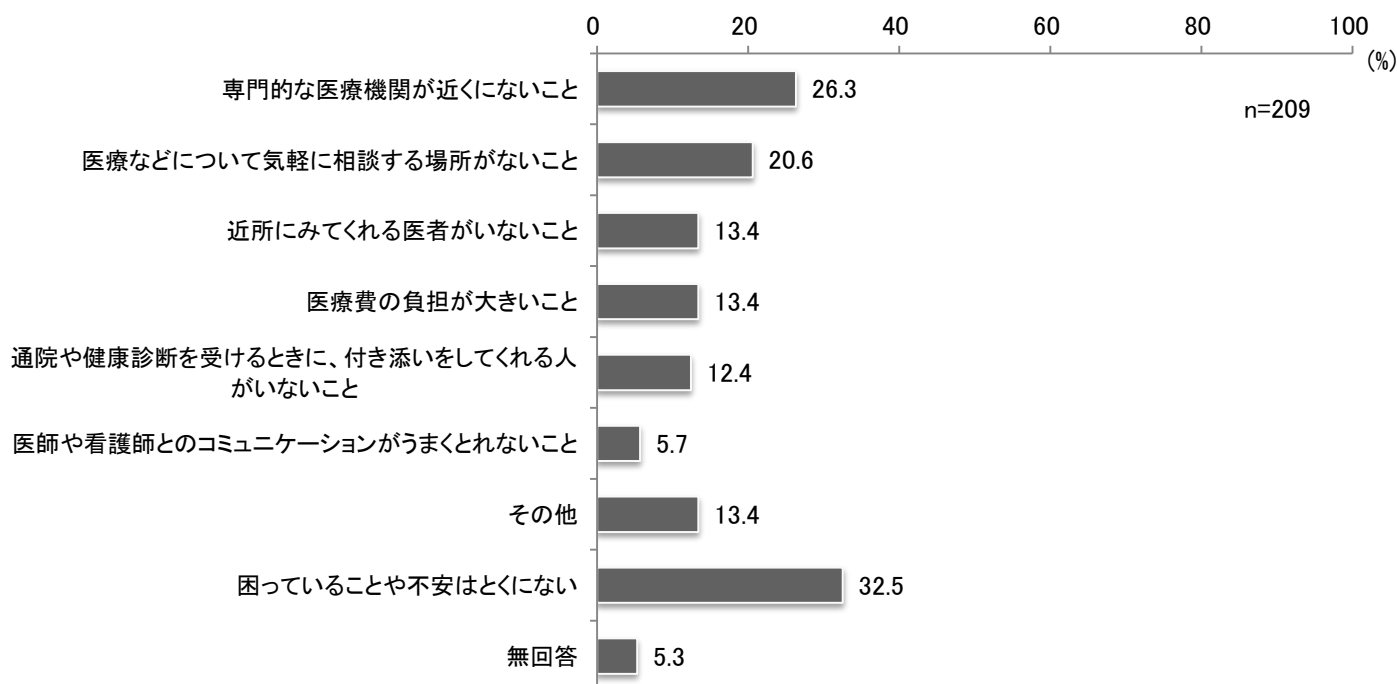
「その他」としては、具体的に「シャント」、「人工内耳聴力マッピング」、「自己導尿、浣腸」、「義眼着用」、「サチュレーションモニター」、「口腔リハビリ」などの記入があった。

ウ 医療について困っていること・不安に感じること

問 16 医療について困っていることや不安を感じることはありますか。(〇はいくつでも)

32.5%の人は、医療について「困っていることや不安はとくにない」と回答しているが、困っていることや不安としては、「専門的な医療機関が近くにないこと」が 26.3%と最も多く、次いで「医療などについて気軽に相談する場所がないこと」が 20.6%で続いている。

＜医療について困っていること・不安に感じること＞



「その他」としては、具体的に以下のような記入があった。

- ・ 主治医の予約がなかなかとれない。(15～17 歳女性、身体・知的)
- ・ 児童精神科の予約がとりにくい。半年以上待つこともある。(15～17 歳男性、知的・発達)
- ・ どの医療機関がいいのか判断がむずかしいこと。(15～17 歳男性、知的・発達)
- ・ 医師のレベルに差がある。(6～11 歳男性、精神・発達)
- ・ 前例がほとんどないため、治療に行きづまっている。(6～11 歳女性、難病)
- ・ 定期的な受診に保護者の時間がとられること。(12～14 歳男性、難病)
- ・ ケア(介護)の負担、昼夜ケアが必要で、ケアする側が寝られない。(6 歳未満女性、身体)
- ・ 母親か主治医でないと長時間みられないこと。訪問看護師による留守看や預かり入院ができないこと。(6 歳未満女性、身体・難病)
- ・ 今後、負担が大きくなると予想して。(6 歳未満男性、知的・発達)
- ・ 本人が診察をいやがる。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 初めての場所など見通しの立たない病院は苦手で落ち着かなくなる。病院での私の負担が大きく、考えるだけで体が重くなる。(6 歳未満男性、知的・発達)
- ・ 小学校入学を控えているが、学校での導尿等、まだ完全に自分ではできないこと。(6～11 歳女性、身体)

(5) 介助・援助の状況

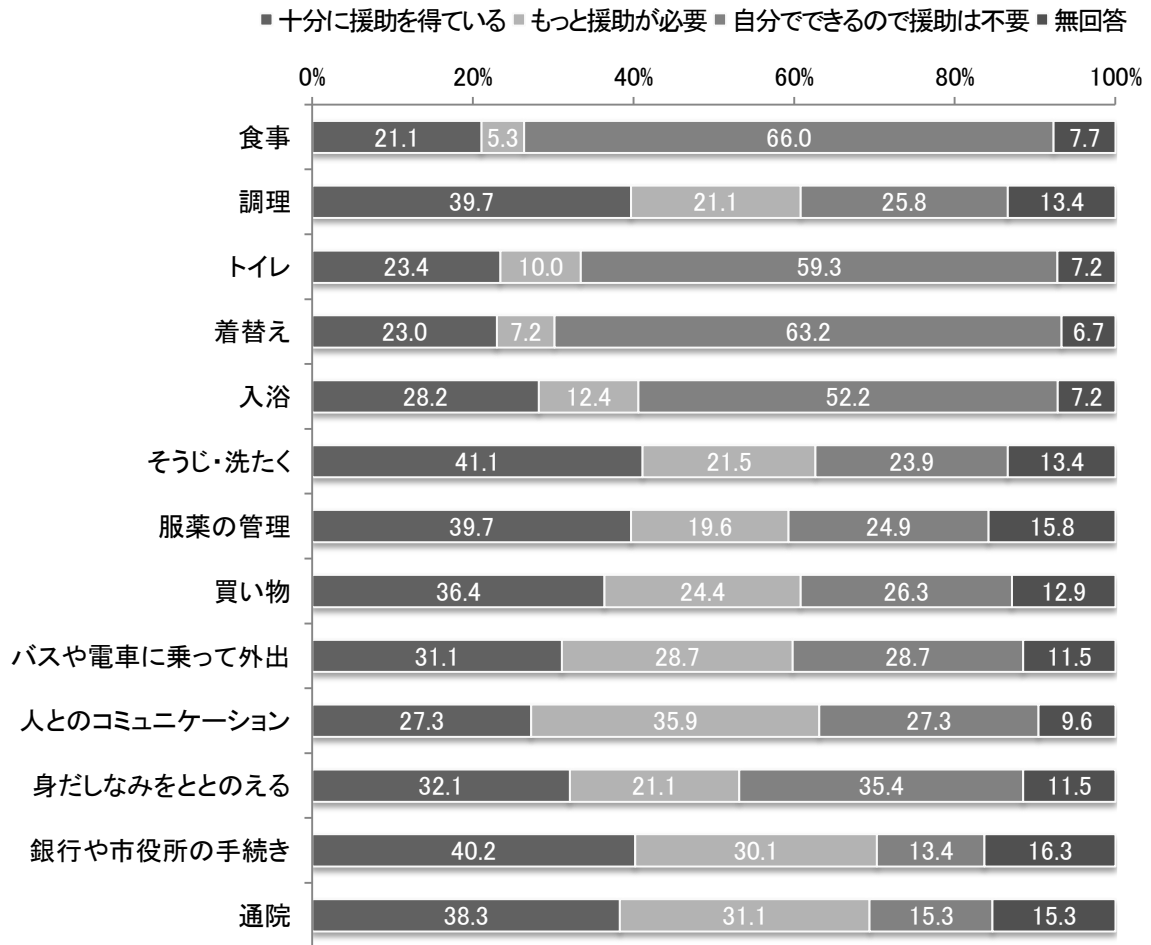
ア 介助・援助の充足度

問 17 お子さまは、次の項目について援助を要するときに、まわりの人から十分に援助を得ることができていますか。もっと援助が必要と思いますか。①～⑬のそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

日常生活における介助・援助の充足度をみると、充足度が最も低いのは「人とのコミュニケーション」で、35.9%が「もっと援助が必要」と回答している。

＜介助・援助の充足度＞

n=209



＜「もっと援助が必要」な人の割合/対象者の年齢別＞

(%)

	食事	調理	トイレ	着替え	入浴	そうじ・洗たく	服薬の管理
6歳未満 n=39	7.7	12.8	15.4	10.3	12.8	15.4	10.3
6～11歳 n=69	8.7	20.3	14.5	7.2	17.4	27.5	26.1
12～14歳 n=34	2.9	23.5	8.8	5.9	8.8	17.6	17.6
15～17歳 n=65	1.5	26.2	3.1	6.2	9.2	21.5	20.0

	買い物	バスや電車に乗って外出	人とのコミュニケーション	身だしなみをととのえる	銀行や市役所の手続き	通院
6歳未満 n=39	20.5	23.1	28.2	7.7	20.5	25.6
6～11歳 n=69	26.1	36.2	39.1	27.5	31.9	33.3
12～14歳 n=34	23.5	29.4	41.2	20.6	23.5	26.5
15～17歳 n=65	26.2	24.6	33.8	21.5	36.9	33.8

※ 無回答は表示を省略

「その他」としては、具体的に以下のような記入があった。

- ・ デイサービス・ヘルパーさん等をトータルで理解しているのが母のみのため、トータルコーディネーター(ケアマネージャー)のような方がいると助かる。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 余暇の充実・居場所作り、相談できる場所(気軽に)、一括した相談先将来の話(先輩達の経験ナド)仲間作り兄弟達へのフォロー、家族単位でのフォロー支援。(15～17 歳女性、身体・知的・発達)
- ・ 買い物行くのでも子どもを預けられる一時保育の施設を増やして欲しい。(6 歳未満男性、知的・発達)
- ・ 買い物につれて行けないので保育園にいる間に済ませたいが、園は就労以外の保育を認めない。支援として認めてほしい。(6 歳未満男性、知的・発達)
- ・ 通学や通所の朝夕の往復の道のりについての援助が不足。(15～17 歳男性、知的・発達)
- ・ 移動支援を利用しているが、急な外出、短時間の外出、友達との外出の見守りの支援が、親族以外でやってもらえるとよい。(15～17 歳女性、知的・難病)
- ・ 一時的な外出でなく、通学の援助、学校下校後の障害児のための学童などの居場所。(15～17 歳女性、知的)
- ・ 一人で外出する気力が本人にない時ときに一緒に出かけてくれるなどフレンド的な対応をしてくれる人。(15～17 歳女性、精神・発達)
- ・ 都立特別支援学校(高等部)の通学のつきそい(高校からスクールバスがなくなり、自立登校を促されるができるまで毎朝母親が1時間かけて付き添ってほしい。(15～17 歳男性、知的・精神・発達)
- ・ 学習に関して。義務教育で受けられるべき内容を学校で受けられない。(6～11 歳男性、知的・発達)

イ 介助・援助が受けられなくなった経験

問18 お子さまを主にケアしている方の急な病気や外出で、介助・援助できなくなったことはありますか。(○は1つ)

53.1%の人が、主な介助・援助者の病気や外出等で介助・援助が受けられなくなったことが「ある」と回答している。

対象者の年齢別にみると、「6～11 歳」では 66.7%が介助・援助が受けられなくなったことが「ある」と回答している。

＜介助・援助が受けられなくなった経験/対象者の年齢別＞

(%)

		ある	ない	覚えていない・わからない	無回答
対象者全員	n=209	53.1	40.7	4.8	1.4
6歳未満	n=39	56.4	35.9	7.7	—
6～11 歳	n=69	66.7	30.4	2.9	—
12～14 歳	n=34	41.2	52.9	2.9	2.9
15～17 歳	n=65	41.5	49.2	6.2	3.1
無回答	n=2	100.0	—	—	—

ウ 代わりの介助・援助者

副問 18-1 そのとき、代わりに介助・援助してくれる人は見つかりましたか。(○は1つ)

※ 問 18 で「介助・援助を受けられなくなったことがある(選択肢 1)」と回答した人

代わりに介助・援助してくれる人が「いずれも見つからなかった」と回答した人は 10.8%、「見つかったこともあるし、見つからなかったこともある」が 50.5%となっており、合わせると約6割の人には代わりの介助・援助者が見つからなかった経験があることがわかる。

対象者の年齢別にみると、「6歳未満」では22人中13人(59.1%)が「いずれのときも見つかった」と回答している。

＜代わりの介助・援助者/対象者の年齢別＞

(%)

		いずれのときも見つかった	見つかったこともあるし、見つからなかったこともある	いずれも見つからなかった	覚えていない・わからない	無回答
対象者全員	n=111	36.9	50.5	10.8	0.9	0.9
6歳未満	n=22	59.1	27.3	13.6	—	—
6～11歳	n=46	30.4	56.5	10.9	2.2	—
12～14歳	n=14	35.7	64.3	—	—	—
15～17歳	n=27	33.3	55.6	7.4	—	3.7
無回答	n=2	—	—	100.0	—	—

エ 代わりの介助・援助者が見つからなかったときの対応

副問 18-2 そのときはどのように対応しましたか。差し支えなければ、そのときの状況をお書きください。(自由記入)

※ 副問 18-1 で「介助・援助者が見つからなかったことがある(選択肢 2,3)」と回答した人

代わりの介助・援助者が見つからなかったときの対応としては、具体的に以下のような記入があった。

＜代わりの介助・援助者が見つからなかったときの対応(自由記入)＞

<p>＜介護者の体調が悪いのに無理して対応した＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が入院している時、主人の仕事が休めず、無理に退院してきた。(6～11歳男性、知的・発達) 死にそうになりながら(介護者が)、介護する。(6～11歳女性、身体・知的) 熱があるにもかかわらず、家で子どもの世話をした。(6～11歳男性、知的・発達) 手首骨折をしている状態でも無理をして車の運転をするなどぎりぎり持ちこたえるなど。(15～17歳女性、身体・知的・発達) ぎっくり腰のときなど、自分の通院もできず、体調悪く、必死で介護した。(12～14歳男性、身体・知的) 母親が体調不良であっても、母親がするしかない。(6歳未満女性、身体・難病) 高熱で倒れそうだったが、どうにか子どもに食事をさせて、入浴し、寝かしつけた。(15～17歳男性、知的・発達) 具合が悪くて病院に行きたくても行けないので自分が我慢をした。(15～17歳男性、知的・発達) 自分が入院するなどの重大な病気以外は、たとえ高熱があろうとも子どもの対応をする。(6～11歳男性、知的・難病) 体調の悪い時に誰もみつけず、やむなく自分(主にケアしている父)がケアした。(6歳未満男性、身体・難病) 	12件
<p>＜介護者が仕事を休んで対応した＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕事を休んだ。(12～14歳女性、知的・発達) 仕事をキャンセルした。(12～14歳男性、精神・発達) 家族が仕事を休む等調整をして対応した。(15～17歳男性、知的・発達) 	6件

<p>＜本人・介護者の予定を変更して対応した＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療育を欠席した。(6～11 歳男性、精神・発達) ・幼稚園を休んで家で面倒を見ていた。(6 歳未満男性、知的・発達) ・学校を休ませた。(6～11 歳男性、身体) ・通院などをキャンセルした。(6 歳未満女性、知的) ・外出をあきらめた。外出をやめた。(15～17 歳女性、身体・知的) ・日にちをずらして、家族に頼む。(6～11 歳女性、身体・知的) ・自分(介護者)の予定を取りやめた。(6～11 歳男性、知的・発達) ・自分の用事をあきらめて、子どもの対応を優先した。(6～11 歳男性、知的・難病) ・外出の予定を別の日に変更した。(15～17 歳男性、知的) ・義母が亡くなったとき、遠方のため同行させる事もできず葬儀参列をあきらめた。(12～14 歳男性、身体・知的) ・親戚の不幸のときは通夜に行かず、告別式だけの日帰りにした。(15～17 歳男性、身体) 	17 件
<p>＜外出先等に一緒に連れて行った＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕方がないので一緒につれていく。(6～11 歳女性、身体・知的) ・病気の時は我慢。外出の時は本人を連れて行くしかない。(6～11 歳男性、知的・発達) ・外出先にがんばってつれて行った。(6 歳未満男性、身体) 	3 件
<p>＜子ども一人で何とかした、無理して何とかした＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのまま家に1人でいさせた。(6～11 歳男性、知的・発達) ・中学からの通学(要付きそい)時、どうしてもむかえに行けず、一人で帰宅させた。(15～17 歳女性、知的・発達) ・テレビ、DVDを見せて、なんとか乗り切った。(6～11 歳男性、知的) ・子どもは自宅から出られず、通院もできず。日常生活にもどれるのをただ待っていた。(15～17 歳男性、知的・発達) ・無理でもやるしかないのが現状。(12～14 歳女性、難病) ・ひたすら耐えた。(6 歳未満男性、知的) ・病気で寝ていたい目が離せないのでそばで遊ばせた。(6～11 歳男性、身体・知的・難病) ・そのまま一緒にいて、家族が帰ってくるのを待った。(6～11 歳女性、知的・発達) ・とりあえず、できるところまで自分でやった。(6～11 歳女性、身体・知的・難病・発達・高次) 	9 件
<p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出前に本人と「守ってもらいたい事などの必要内容」の話をする。(12～14 歳女性、知的・発達) ・遠くにいるおじいちゃん、おばあちゃんを呼ぶ。(6～11 歳男性、知的) ・移動支援のサービスを利用したかったが、頼める人が見つからなかった。(6～11 歳男性、知的・発達) ・移動支援の支給時間数が足りなくなりそうで結局、身内で探した。(12～14 歳男性、知的・発達) ・兄弟に学校を休んでもらった。(男性、知的・発達) ・民間のベビーシッター会社に高額のお金を支払ってみてもらった。(男性、知的・発達) ・いつもお世話になっている施設の短期入所をフル活用して、なんとかのりきった。(15～17 歳男性、知的・精神・発達) ・知人の伝手で臨時のヘルパーさん(小さい子のいるお母さん)を頼んだ。(6～11 歳男性、知的・発達) ・急病のとき子どもの食事を作れず、デリバリーをとったり、ラーメンやパンを食べさせた。(15～17 歳男性、知的) 	9 件

※ ひとりの記入内容で複数の内容が含まれている場合には、それぞれにカウント

(6) 福祉サービスの利用について

ア 福祉サービスの充足度

問 19 お子さまは、現在、必要だと思うサービスを、十分利用できていると思いますか。(○は1つ)

現在、必要だと思うサービスを「十分、利用できていると思う」人は 21.1%、「利用できているが、十分ではないと思う」人は 39.7%、「ほとんど利用できていないと思う」人は 10.5%である。

なお、「現在、サービスは利用していない(必要がない)」、「わからない」、「無回答」を除いた対象者で見ると、福祉サービスの利用者のうち「十分、利用できていると思う」人は、約3割(29.5%)であることがわかる。

＜福祉サービスの充足度/対象者の年齢別＞

(%)

		現在、サービスは利用していない(必要がない)	十分、利用できていると思う	利用できているが、十分ではないと思う	ほとんど利用できていないと思う	わからない	無回答
対象者全員	n=209	16.7	21.1	39.7	10.5	11.5	0.5
6歳未満	n=39	10.3	25.6	48.7	7.7	7.7	—
6～11歳	n=69	8.7	27.5	47.8	8.7	7.2	—
12～14歳	n=34	26.5	11.8	29.4	11.8	20.6	—
15～17歳	n=65	24.6	16.9	29.2	13.8	13.8	1.5
無回答	n=2	—	—	100.0	—	—	—

		「現在、サービスは利用していない(必要がない)」、「わからない」、「無回答」を除く	十分、利用できていると思う	利用できているが、十分ではないと思う	ほとんど利用できていないと思う
対象者全員	n=149		29.5	55.7	14.8
6歳未満	n=32		31.3	59.4	9.4
6～11歳	n=58		32.8	56.9	10.3
12～14歳	n=18		22.2	55.6	22.2
15～17歳	n=39		28.2	48.7	23.1
無回答	n=2		—	100.0	—

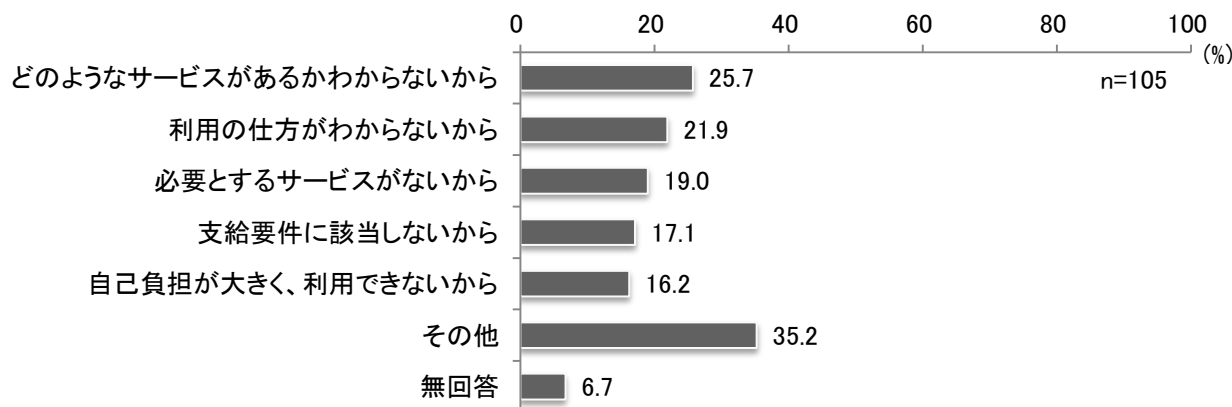
イ 必要なサービスを十分利用できていない理由

副問 19-1 必要だと思うサービスを、十分、利用できていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

※ 問 19 で「十分、利用できていない(選択肢 3,4)」と回答した人

必要なサービスを十分利用できていない理由としては、「どのようなサービスがあるかわからないから」が 25.7%と最も多く、次いで「利用の仕方がわからない」が 21.9%で続いている。

＜必要なサービスを十分利用できていない理由＞



「その他」としては、具体的に以下のような内容があった。

＜サービス提供基盤の面から＞

- ・ 人数の制限がある所がある。(15～17 歳男性、知的・発達)
- ・ 通わせたい児童デイがいっぱいで入れないから。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 支援者(移動)がみつからない。(15～17 歳男性、知的・発達)
- ・ 提供側の人手不足。通学に使えない。(15～17 歳男性、知的・高次)
- ・ 事業所がとても利用者が多くて混んでいて、利用できない。(12～14 歳男性、身体・知的)
- ・ ヘルパーのなり手がいない(人を自分で探さなければならず制度はあるが利用できない)。(6 歳未満男性、知的)
- ・ 移動支援のサービスを利用したくてもやってくれる人が見つからず使えないときがある。(12～14 歳男性、知的・発達)
- ・ 児童の日中一時支援事業が一つしかなく足りない。(6～11 歳男性、知的・難病)
- ・ デイサービス、ヘルパーの申込をしても定員いっぱいでは利用できないから。(6～11 歳男性、知的・発達)

＜サービス支給決定量の面から＞

- ・ 限度時間数が少ない。(15～17 歳男性、知的)
- ・ 利用できる日数が減った。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 移動支援で使える時間が少ない。(15～17 歳男性、知的・発達)
- ・ 受給者証の日数限度が制限されているため。(6 歳未満男性、知的・発達)
- ・ サービスの受給時間が足りず、親でカバーしている。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 住宅改修が一度しかできないので、なかなか利用しづらい。(6～11 歳男性、身体・難病)

＜サービスの質的なことや利用手続きの面から＞

- ・ 男性の介助者が少ない。(6～11 歳男性、知的・難病)
- ・ 表向きは整っているが内容(人材)がよくない。(15～17 歳男性、知的・発達)
- ・ 子に常時行う医療ケア(呼吸器の操作)について、訪問看護師が行う許可が下りていないため。(6 歳未

満女性、身体・難病)

- ・ 放課後デイサービスなどを利用したいが申請が大変と聞く。(6～11 歳男性、精神・発達)
- ・ 緊急時の外出の際一時保護施設を利用したかったが時間的に間に合わなかった。(15～17 歳男性、知的・発達)

<その他>

- ・ 子どもがいやがる。(15～17 歳女性、知的・発達)
- ・ 子ども本人が私以外受け入れないため。(15～17 歳男性、身体・知的・難病)
- ・ まだ体力が不十分だったり、トイレが自立していないため、移動支援で長い援助を依頼できない。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 自閉症が重く家にいるほうが本人が安心している。(6～11 歳女性、知的・発達)

ウ 新たに創設されるサービスの利用意向

問 20 次のようなサービスがあったら、利用させてみたいと思いますか。①～④のサービスそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

① 居宅訪問により児童発達支援を提供するサービス

重度の障がいなどがあり、障害児通所支援を利用するために外出することがとても難しい障がい児に対して、そのお宅を訪問して発達支援を行います。

「居宅訪問により児童発達支援を提供するサービス」については、56.9%が「必要になったら、利用してみたい」と回答している。

年齢別にみると、6歳未満では「必要になったら、利用してみたい」が約7割(71.8%)を占めている。

<「居宅訪問により児童発達支援を提供するサービス」の利用意向/対象者の年齢別> (%)

		必要になったら、 利用してみたい	利用したくない	わからない	無回答
対象者全員	n=209	56.9	7.2	24.9	11.0
6歳未満	n=39	71.8	5.1	12.8	10.3
6～11 歳	n=69	63.8	8.7	21.7	5.8
12～14 歳	n=34	44.1	5.9	29.4	20.6
15～17 歳	n=65	47.7	6.2	33.8	12.3
無回答	n=2	50.0	50.0	—	—

② 地域生活を支援する新たなサービス(自立生活援助)

グループホームなどを利用していた方が、ひとり暮らしを始めたときに、そのお宅を定期的に訪問し、ふだんの生活に何か問題が起きていないかなどを確認し、必要な助言や医療機関などの連絡調整を行います。

「自立生活援助」については、70.3%が「必要になったら、利用してみたい」と回答している。

<「自立生活援助」の利用意向/対象者の年齢別> (%)

		必要になったら、 利用してみたい	利用したくない	わからない	無回答
対象者全員	n=209	70.3	5.3	15.8	8.6
6歳未満	n=39	79.5	5.1	7.7	7.7
6～11 歳	n=69	73.9	5.8	14.5	5.8
12～14 歳	n=34	52.9	2.9	26.5	17.6
15～17 歳	n=65	70.8	6.2	15.4	7.7
無回答	n=2	50.0	—	50.0	—

③ 就労定着に向けた支援を行う新たなサービス(就労定着支援)

一般就労した障がいのある方で、環境の変化などにより心身に問題が起きている方に対して、相談を受け必要な助言をしたり、会社や関係機関などとの連絡調整を行います。

「就労定着支援」については、78.0%が「必要になったら、利用してみたい」と回答している。

＜「就労定着支援」の利用意向/対象者の年齢別＞ (%)

		必要になったら、 利用してみたい	利用したくない	わからない	無回答
対象者全員	n=209	78.0	3.3	11.0	7.7
6歳未満	n=39	74.4	5.1	10.3	10.3
6～11歳	n=69	85.5	2.9	8.7	2.9
12～14歳	n=34	73.5	0.0	14.7	11.8
15～17歳	n=65	75.4	4.6	10.8	9.2
無回答	n=2	50.0	—	50.0	—

④ 重度訪問介護の訪問先の拡大

重度の障がいによりホームヘルプを利用している方が、病院に入院したときも、状態をよく知っているヘルパーに引き続き入院先に支援に入ってもらい、ニーズを病院の人に伝えるなどの支援を行います。

「重度訪問介護の訪問先の拡大」については、59.3%が「必要になったら、利用してみたい」と回答している。

＜「重度訪問介護の訪問先の拡大」の利用意向/対象者の年齢別＞ (%)

		必要になったら、 利用してみたい	利用したくない	わからない	無回答
対象者全員	n=209	59.3	3.8	23.9	12.9
6歳未満	n=39	71.8	2.6	12.8	12.8
6～11歳	n=69	71.0	2.9	20.3	5.8
12～14歳	n=34	50.0	5.9	23.5	20.6
15～17歳	n=65	46.2	4.6	33.8	15.4
無回答	n=2	—	—	50.0	50.0

身体障がいと知的障がいの重複者(身体障害者手帳と療育手帳の両方を所持している者)についてみると、15人中14人(93.3%)が「必要になったら、利用してみたい」と回答しており、「利用したくない」と回答した者はいなかった。

＜[重度訪問介護の訪問先の拡大]の利用意向/身体障がいと知的障がいの重複者＞ (%)

		必要になったら、 利用してみたい	利用したくない	わからない	無回答
身体・知的障がい[重複]	n=15	93.3	—	—	6.7

(7) 教育や社会活動等について

ア 通園・通学先

問 21 現在、お子さまが通園・通学しているところはどこですか。(○は1つ)

通園・通学先は、「特別支援学校(身体、知的)」が28.2%、「特別支援学級(小・中学校)」が26.8%などとなっている。

＜通園・通学先＞

(%)

	通園施設(児童発達支援など)	保育所・幼稚園	通常学級(小・中学校)	特別支援学級(小・中学校)	特別支援学校(身体、知的)	特別支援学校(盲学校、ろう学校)	高等学校(夜間を含む)	定時制高校	その他	通園・通学はしていない	無回答
n=209	6.7	9.6	10.5	26.8	28.2	3.3	6.7	1.0	2.9	3.3	1.0

イ 通園・通学にかかる時間

問 22 お子さまの通園・通学にかかる時間はどれくらいですか。(○は1つ)

※ 現在、通園・通学している人

通園・通学にかかる時間は、「30分未満」が51.0%、「30分～1時間未満」が38.0%を占める。

通園・通学先別にみると、「特別支援学校(身体、知的)」では、通学に「1時間～2時間未満」かかる人が16.9%みられる。

＜通園・通学にかかる時間/通園・通学先別＞

(%)

		30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満
対象者全員	n=200	51.0	38.0	10.5	0.5
通園施設(児童発達支援など)	n=14	57.1	28.6	14.3	—
保育所・幼稚園	n=20	100.0	—	—	—
通常学級(小・中学校)	n=22	86.4	13.6	—	—
特別支援学級(小・中学校)	n=56	76.8	21.4	1.8	—
特別支援学校(身体、知的)	n=59	8.5	74.6	16.9	—
特別支援学校(盲学校、ろう学校)	n=7	28.6	14.3	57.1	—
高等学校(夜間を含む)	n=14	21.4	64.3	14.3	—
定時制高校	n=2	—	50.0	50.0	—
その他	n=6	33.3	33.3	16.7	16.7

ウ 通園・通学する上で困っていること・不安に感じること

問 23 通園・通学する上で、困っていることや不安なことはありますか。(〇はいくつでも)

※ 現在、通園・通学している人

通園・通学にすることで困っていることや不安なこととしては、「通園・通学先が遠い」ことをあげる人が24.5%と最も多く、次いで「通園・通学の方法が不便」(16.5%)、「職員や教員の数が不足している」(13.0%)と続いている。

通園・通学先別にみると、「特別支援学級(小・中学校)」では、約2割が「職員・教員の理解が不足している」(21.4%)ことをあげ、最も多くなっている。また、「特別支援学校(身体、知的)」では「通園・通学先が遠い」(35.6%)、「通園・通学の方法が不便」(30.5%)をあげる人がそれぞれ3割を超え特に多くなっている。

＜通園・通学する上で困っていること・不安に感じること/通園・通学先別＞ (%)

	通園・通学先が遠い	通園・通学の方法が不便	職員や教員の数が不足している	職員・教員の理解が不足している	他の生徒との関係がうまくいかない	教員の教え方や接し方に不満がある
対象者全員 n=200	24.5	16.5	13.0	11.5	11.5	11.0
通園施設(児童発達支援など) n=14	71.4	28.6	7.1	7.1	—	7.1
保育所・幼稚園 n=20	5.0	10.0	15.0	5.0	—	5.0
通常学級(小・中学校) n=22	4.5	0.0	13.6	18.2	31.8	18.2
特別支援学級(小・中学校) n=56	17.9	10.7	14.3	21.4	14.3	12.5
特別支援学校(身体、知的) n=59	35.6	30.5	16.9	6.8	6.8	11.9
特別支援学校(盲学校、ろう学校) n=7	28.6	28.6	—	—	—	—
高等学校(夜間を含む) n=14	7.1	—	7.1	7.1	14.3	7.1
定時制高校 n=2	—	50.0	—	—	50.0	—
その他 n=6	50.0	—	—	—	16.7	16.7

	園内や校内のケアが不十分	トイレ等の設備が不十分	希望する学級に入れない	その他	無回答
対象者全員 n=200	4.5	2.0	1.5	14.5	37.5
通園施設(児童発達支援など) n=14	—	—	—	7.1	14.3
保育所・幼稚園 n=20	—	—	—	10.0	65.0
通常学級(小・中学校) n=22	9.1	4.5	—	4.5	50.0
特別支援学級(小・中学校) n=56	3.6	—	1.8	12.5	41.1
特別支援学校(身体、知的) n=59	6.8	3.4	3.4	16.9	25.4
特別支援学校(盲学校、ろう学校) n=7	—	—	—	28.6	28.6
高等学校(夜間を含む) n=14	—	7.1	—	21.4	57.1
定時制高校 n=2	50.0	—	—	50.0	0.0
その他 n=6	—	—	—	33.3	16.7

「その他」としては、具体的に以下の内容があった。

- ・ 必要用具が不十分。(6～11歳男性、身体)
- ・ 学校の老朽化(6～11歳女性、知的)
- ・ 地域の小学校にトイレとバリアフリーであれば。(6～11歳男性、身体・難病)
- ・ 固定の情緒学級がない。(6～11歳男性、知的・発達)
- ・ 言語教室の回数が少ない。(6～11歳男性、精神・発達)
- ・ スクールバス乗り場が遠い。(6～11歳男性、知的・発達)
- ・ 保育時間中の医療行為。(6～11歳女性、身体)
- ・ 毎日の送迎があり、用事があるときは、その時間に合わせ、早退させている。(12～14歳女性、身体・発達)

- ・ 通学の送迎のために両親共に時短勤務をしている。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 保護者による送迎があるため、スクールバス利用者と比べ、時間、体力共に負担。(12～14 歳男性、身体・知的)
- ・ 1人通学の訓練に付き添いをしてもらいたい。(私が仕事をしている為) (15～17 歳男性、知的)

エ 放課後の主な過ごし方

問 24 お子さまは、放課後、主にどのように過ごしていますか。(○は1つ)

※ 現在、通園・通学している人

放課後の主な過ごし方としては、43.0%の人が「外出はあまりせずに自宅にいる」と回答している。

通園・通学先別にみると、「特別支援学校(身体、知的)」では、22.0%の人が「日中一時支援施設に通う」と回答している。

＜放課後の主な過ごし方/通園・通学先別＞

(%)

		外出はあまりせずに自宅にいる	保護者といっしょに出かける	通所訓練施設に通う	日中一時支援施設に通う	学童保育に通う	その他	無回答
対象者全員	n=200	43.0	5.5	7.0	9.5	4.5	25.5	5.0
通園施設(児童発達支援など)	n=14	50.0	28.6	—	7.1	0.0	7.1	7.1
保育所・幼稚園	n=20	50.0	15.0	10.0	—	—	20.0	5.0
通常学級(小・中学校)	n=22	36.4	—	4.5	—	9.1	50.0	—
特別支援学級(小・中学校)	n=56	46.4	1.8	8.9	7.1	8.9	23.2	3.6
特別支援学校(身体、知的)	n=59	37.3	1.7	8.5	22.0	—	25.4	5.1
特別支援学校(盲学校、ろう学校)	n=7	42.9	14.3	—	—	—	28.6	14.3
高等学校(夜間を含む)	n=14	42.9	—	—	7.1	—	35.7	14.3
定時制高校	n=2	50.0	50.0	—	—	—	—	—
その他	n=6	50.0	—	16.7	—	33.3	—	—

「その他」としては、具体的に以下の内容があった。

- | | | | |
|-------------|------|-----------|-----|
| ・ 放課後デイサービス | 18 件 | ・ 友だちと遊ぶ | 5 件 |
| ・ 部活動、クラブ活動 | 16 件 | ・ 保育所・保育園 | 2 件 |
| ・ 塾、習い事 | 8 件 | ・ その他 | 3 件 |

※ ひとりの記入内容で複数の内容が含まれている場合には、それぞれにカウント

オ 卒園・卒業後の進路希望

問 25 お子さまの卒園・卒業後について、どのようにお考えですか。(○は1つ)

※ 現在、通園・通学している人

卒園・卒業後の進路としては、「特別支援学級(小・中学校)」では、32.1%が「特別支援学校へ進学したい」、12.5%が「普通学校へ進学したい」と回答している。また、「特別支援学校(身体、知的)」では、30.5%が「作業所などの福祉施設に通いたい」と回答している。

＜卒園・卒業後の進路希望/通園・通学先別＞

(%)

	特別支援学校 へ進学したい	普通学校へ進 学したい	専門学校や職 業訓練校など、 教育訓練機関 に通いたい	作業所などの福 祉施設に通いた い	障がいがある人 が多く働いてい る会社に勤めた い
対象者全員 n=200	19.0	21.5	4.5	13.0	9.5
通園施設(児童発達支援など) n=14	28.6	35.7	—	—	—
保育所・幼稚園 n=20	40.0	35.0	—	—	5.0
通常学級(小・中学校) n=22	—	81.8	—	—	—
特別支援学級(小・中学校) n=56	32.1	12.5	8.9	10.7	7.1
特別支援学校(身体、知的) n=59	10.2	5.1	1.7	30.5	16.9
特別支援学校(盲学校、ろう学校) n=7	14.3	14.3	—	—	14.3
高等学校(夜間を含む) n=14	—	7.1	7.1	14.3	21.4
定時制高校 n=2	—	—	50.0	—	—
その他 n=6	16.7	16.7	16.7	—	—

	一般の会社に 就職したい	その他	わからない、ま だ決めていない	無回答
対象者全員 n=200	7.5	4.5	18.0	2.5
通園施設(児童発達支援など) n=14	—	7.1	28.6	—
保育所・幼稚園 n=20	—	—	15.0	5.0
通常学級(小・中学校) n=22	4.5	4.5	9.1	—
特別支援学級(小・中学校) n=56	1.8	3.6	23.2	—
特別支援学校(身体、知的) n=59	15.3	3.4	15.3	1.7
特別支援学校(盲学校、ろう学校) n=7	14.3	—	28.6	14.3
高等学校(夜間を含む) n=14	21.4	—	21.4	7.1
定時制高校 n=2	—	50.0	—	—
その他 n=6	—	33.3	—	16.7

カ 地域活動の参加状況

問 26 お子さまは、学校等の行事のほかに、地域ではどのような活動や行事に参加されていますか。
(〇はいくつでも)

※ 現在、通園・通学している人

地域の活動や行事については、62.0%が「ほとんど参加していない」と回答している。

対象者の年齢別にみると、15～17歳では、18.8%が「障がい者関係の活動や行事」に、14.1%が「趣味や娯楽の活動」に、12.5%が「バザーや福祉まつりなどの行事」にそれぞれ参加している。

＜地域活動の参加状況/対象者の年齢別＞

(%)

		障がい者関係の活動や行事	町内会や自治会の活動や行事	ボランティア活動	バザーや福祉まつりなどの行事	趣味や娯楽の活動	その他	ほとんど参加していない	無回答
対象者全員	n=200	12.0	12.0	3.5	7.5	14.5	3.0	62.0	1.5
6歳未満	n=32	9.4	15.6	—	3.1	15.6	3.1	68.8	—
6～11歳	n=68	8.8	13.2	1.5	7.4	14.7	4.4	61.8	1.5
12～14歳	n=34	8.8	8.8	8.8	2.9	14.7	5.9	55.9	—
15～17歳	n=64	18.8	10.9	4.7	12.5	14.1	—	60.9	3.1
無回答	n=2	—	—	—	—	—	—	100.0	—

キ 福祉有償運送（ハンディキャブ）の認知状況

問 27 おひとりでの移動が困難で、公共交通機関を利用するの外出が難しい方を対象に、ドア・ツー・ドアの外出支援として、福祉有償運送（ハンディキャブ）サービスがあることを知っていますか。(〇は1つ)

※ 現在、通園・通学している人

福祉有償運送（ハンディキャブ）サービスについては、半数が「知らない」（50.0%）と回答している。

＜福祉有償運送（ハンディキャブ）の認知状況＞

(%)

	会員になり利用している	知っているが、利用したことはない	聞いたことはあるが、内容はよく知らない	その他	知らない	無回答
n=200	1.0	17.5	25.5	2.5	50.0	3.5

(8) 主なケア提供者の状況

ア 主なケア提供者

問 28 家庭の中で、お子さまを主にケアしている方はどなたですか。(〇は1つ)

家庭の中で対象者を主にケアしているのは、「母親」が 93.8%を占める。

＜主なケア提供者＞ (%)

	母親	父親	祖父母	その他	無回答
n=209	93.8	2.9	0.5	1.9	1.0

イ 一日のケアに要する時間

問 29 お子さまを主にケアしている方は、一日にだいたい何時間くらいケアをしていますか(見守りも含む)。(〇は1つ)

一日のうちケアに要する時間は、「3～6時間未満」が 25.8%、「6～9時間未満」が 22.5%と、3～9時間未満が約半数を占めているが、一日「12 時間以上」ケアをしている人も 22.0%みられる。

対象者の年齢別にみると、6歳未満では、43.6%が「12 時間以上」と回答している。

＜一日のケアに要する時間/対象者の年齢別＞ (%)

		1時間未満	1～3時間 未満	3～6時間 未満	6～9時間 未満	9～12時間 未満	12時間 以上	無回答
対象者全員	n=209	9.6	9.6	25.8	22.5	8.1	22.0	2.4
6歳未満	n=39	—	—	20.5	25.6	7.7	43.6	2.6
6～11 歳	n=69	5.8	11.6	26.1	26.1	10.1	18.8	1.4
12～14 歳	n=34	14.7	5.9	26.5	29.4	—	20.6	2.9
15～17 歳	n=65	16.9	15.4	29.2	12.3	9.2	13.8	3.1
無回答	n=2	—	—	—	50.0	50.0	—	—

なお、ケアに要する時間が「12 時間以上」と回答した対象者(46 人)の障がいの状況をみると、身体障がいのみが 5 人、知的障がいのみが 6 人、難病のみが1人、発達障がいのみが 1 人となっており、残り 33 名は複数の障がい重複している。

＜一日のケアに要する時間が「12 時間以上」の人の障がいの状況＞ (%)

	身体障がい	知的障がい	精神障がい	難病	発達障がい	高次脳機能障がい	人数
(重複)	○	○			○		1
(重複)	○	○		○			1
(重複)	○	○					3
(重複)	○			○			5
(重複)	○		○				1
身体障がいのみ	○						5
(重複)		○			○	○	1
(重複)		○			○		20
(重複)		○		○			1
知的障がいのみ		○					6
難病のみ				○			1
発達障がいのみ					○		1
							合計(人) 46

ウ 対象の子ども以外で世話をしている家族の有無

問 30 お子さまを主にケアしている方は、調査対象となったお子さま以外の乳幼児、高齢者、病気・障がいのある人のお世話をしていますか。(○は1つ)

対象者以外に世話を「している」人は 28.2%である。

<対象の子ども以外で世話をしている家族の有無> (%)

	している	していない	無回答
n=209	28.2	70.3	1.4

エ 主なケア提供者の就労状況

問 31 お子さまを主にケアしている方は、現在、収入のある仕事をしていますか。(○は1つ)

主なケア提供者の 47.4%は「収入のある仕事はしていない」が、「パートまたは週30時間未満勤務」(24.9%)や「常勤または週30時間以上勤務」(18.7%)など、約半数の人は働いている状況である。

<主なケア提供者の就労状況> (%)

	常勤または週30時間以上勤務	パートまたは週30時間未満勤務	自営業や農業(ほぼ毎日・かなりの時間)	自営業や農業(ほぼ毎日・わずかな時間)	自営業や農業(週2日以下)	収入のある仕事はしていない	無回答
n=209	18.7	24.9	3.8	2.9	1.4	47.4	1.0

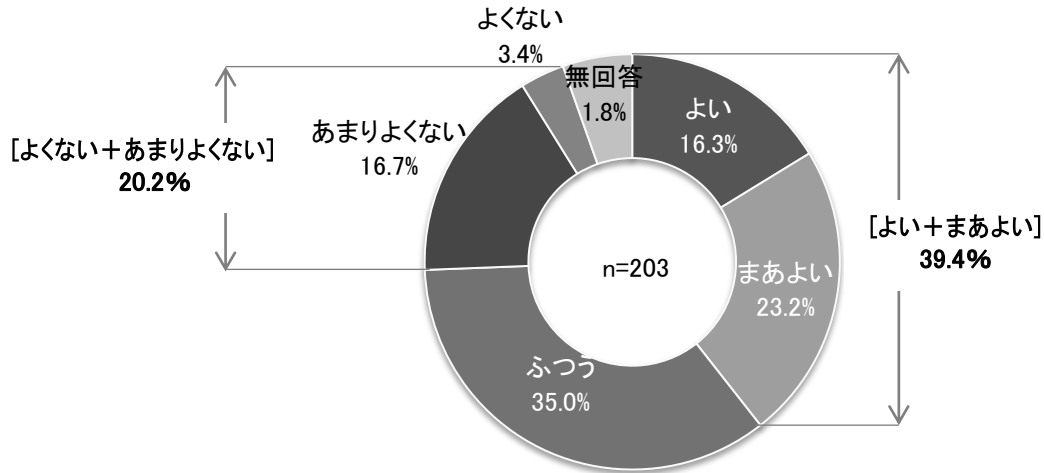
カ 主なケア提供者の健康状態

問 32 あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

※ 主なケア提供者が回答している場合のみに回答

主なケア提供者の健康状態は、約2割が、「よくない」(3.4%)もしくは「あまりよくない」(16.7%)と回答している。

＜主なケア提供者の健康状態＞



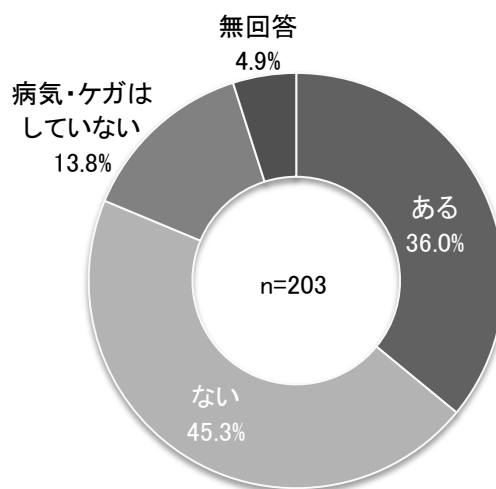
キ 主なケア提供者の受療抑制状況

問 33 過去1年間に、病気やケガにもかかわらず、お子さまのケアが忙しくて、病院や診療所、歯医者などの医療機関に行かなかったことがありますか。(○は1つ)

※ 主なケア提供者が回答している場合のみに回答

対象者のケアが忙しくて医療機関に行かなかったことが「ある」人は 36.0%である。

＜主なケア提供者の受療抑制状況＞



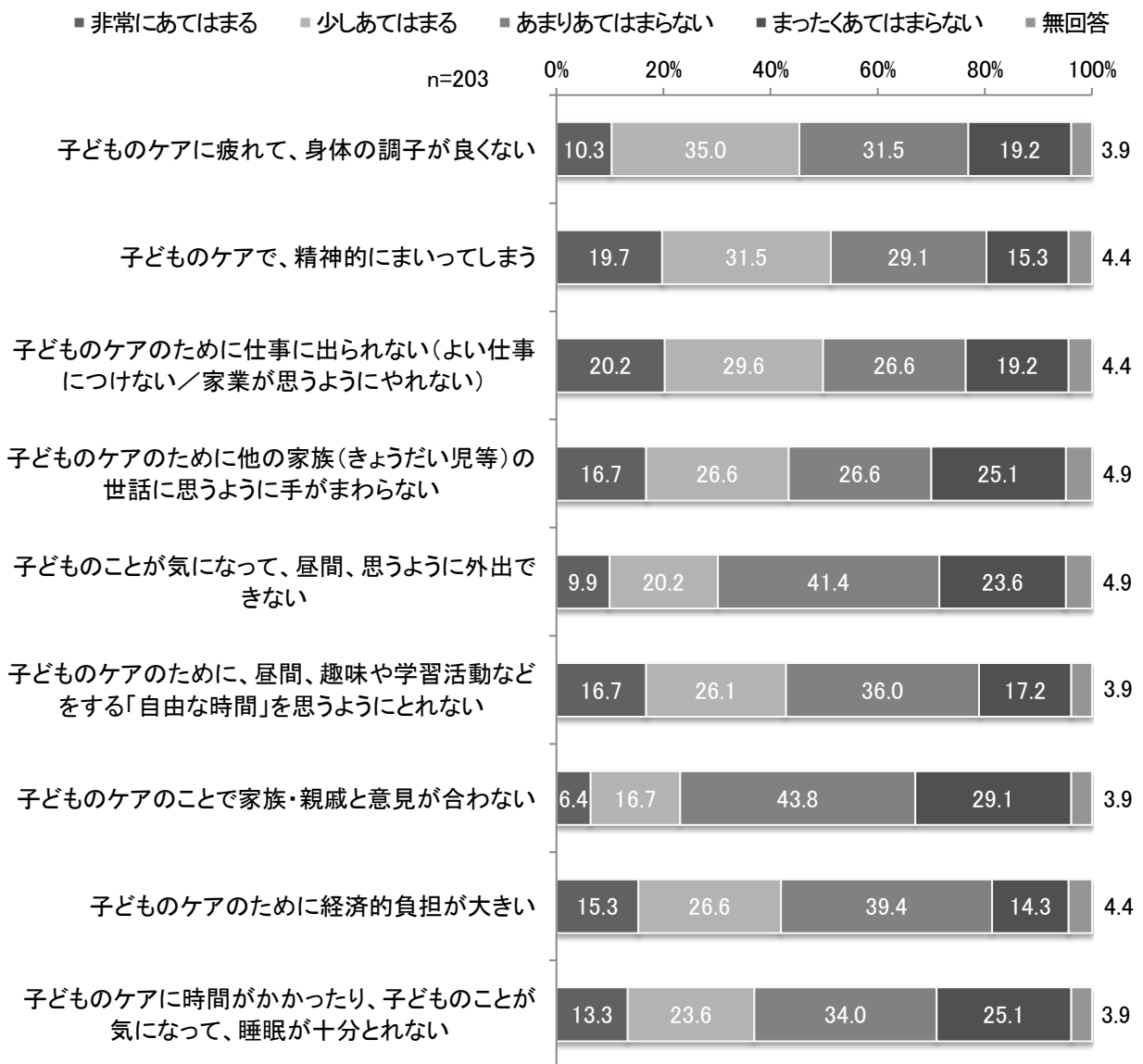
ク 主なケア提供者の心身の健康状態

問 34 お子さまのケアを続けていく中で、次のような問題が、あなたにどの程度あてはまりますか。
 (○は①～⑨のそれぞれに1つずつ)

※ 主なケア提供者が回答している場合のみに回答

「非常にあてはまる」と回答した人の割合が最も高いのは、「子どものケアのために仕事に出られない(よい仕事につけない/家業が思うようにやれない)」で、約2割が「非常にあてはまる」(20.2%)、約3割が「少しあてはまる」(29.6%)と回答しており、約半数はケア負担を感じていることがわかる。また、「子どものケアで、精神的にまいってしまう」は、「非常にあてはまる」が 19.7%、「あてはまる」が 31.5%で、同様に約半数がケア負担を感じている状況となっている。

＜主なケア提供者の心身の健康状態＞



ケ 代わりにケアを頼める人の有無

問 35 お子さまのケアを手伝ってくれる人がいますか。それは誰ですか。(〇はいくつでも)

※ 主なケア提供者が回答している場合のみに回答

対象者のケアを手伝ってくれる人として、約8割の人は「家族・親戚」(80.3%)をあげており、「誰もいない」と回答した人は7.9%にとどまっている。

＜代わりにケアを頼める人の有無＞

(%)

	家族・親戚	障がいのある お子さんがいる 友人・知人	友人・知人、 近所の人	ボランティア	ホームヘル パー、ガイド ヘルパー	その他	誰もいない	無回答
n=203	80.3	10.3	6.9	2.0	14.3	8.4	7.9	5.4

コ 保護者による団体（親の会）の参加状況

問 36 あなたは、障がいのあるお子さんを持つ保護者による団体(親の会)にどれくらい参加していますか。(〇は1つ)

※ 主なケア提供者が回答している場合のみに回答

約6割の人は、障がいのあるお子さんを持つ保護者による団体(親の会)には「入会していない」(59.6%)状況である。

＜保護者による団体(親の会)の参加状況＞

(%)

	週1回以上	月1～3回	年に数回	入会している がほとんど参 加していない	入会していな い	無回答
n=203	0.5	5.9	17.7	11.3	59.6	4.9

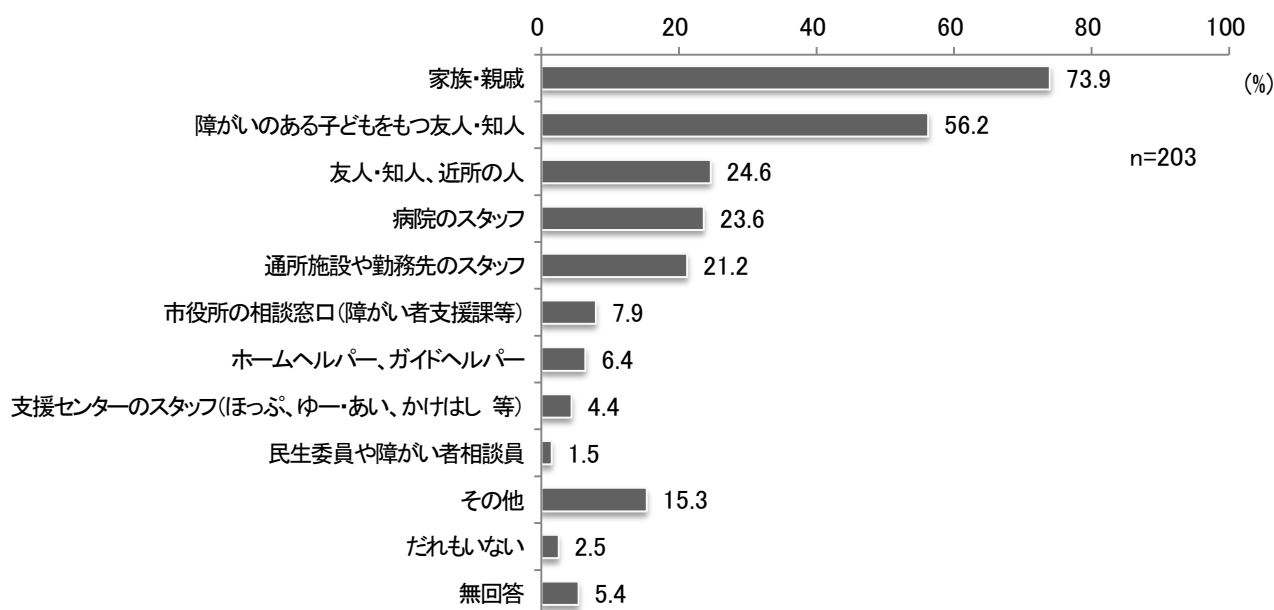
サ 話を聞いてくれたり、相談にのってくれる人

問 37 あなたが、日常生活や障がいのことなどで困ったときに、話を聞いてくれたり、相談にのってくれる人はいますか。それは誰ですか。(〇はいくつでも)

※ 主なケア提供者が回答している場合のみに回答

困ったときに話を聞いてくれたり、相談にのってくれる人としては、「家族・親戚」をあげる人が73.9%と最も多く、次いで「障がいのある子どもをもつ友人・知人」が56.2%で続いている。「その他」としては、具体的に「学校の先生」、「訪問看護師」、「子ども家庭支援センター」などの記入があった。

＜話を聞いてくれたり、相談にのってくれる人＞



(9) 災害時の対策、緊急時の対応等について

ア 災害時の単独避難の能否

問 38 お子さまは、火事や地震などの災害時にひとりで避難できますか。(○は1つ)

火事や地震などの災害時にひとりで避難「できる」人は、15.3%である。

年齢別にみると、ひとりで避難「できる」人の割合は12～14歳では17.6%、15～17歳では27.7%である。

＜災害時の単独避難の能否/対象者の年齢別＞

(%)

		できる	できない	わからない	無回答
対象者全員	n=209	15.3	56.9	26.8	1.0
6歳未満	n=39	2.6	87.2	10.3	—
6～11歳	n=69	10.1	63.8	26.1	—
12～14歳	n=34	17.6	35.3	44.1	2.9
15～17歳	n=65	27.7	43.1	29.2	—
無回答	n=2	—	50.0	—	50.0

障がいの種類別にみると、知的障がいではひとりで避難「できる」と回答した人は6.6%にとどまっている。

＜災害時の単独避難の能否/障がいの種類別＞

(%)

		できる	できない	わからない	無回答
身体障がい	n=54	14.8	66.7	18.5	—
知的障がい	n=137	6.6	68.6	24.1	0.7
精神障がい	n=27	37.0	14.8	48.1	—
難病	n=23	26.1	52.2	21.7	—
発達障がい	n=107	8.4	57.9	32.7	0.9
高次脳機能障がい	n=4	—	75.0	25.0	—
無回答	n=4	25.0	50.0	—	25.0

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

イ 近隣援助者の有無

問 39 家族が不在の場合やひとり暮らしの場合、近所にお子さまを助けてくれる人はいますか。(○は1つ)

近所に助けてくれる人が「いる」人は、18.7%である。

＜近隣援助者の有無＞

(%)

	いる	いない	わからない	無回答
n=209	18.7	43.5	34.9	2.9

ウ 「避難行動要支援者名簿」についての考え

問 40 災害時に行政や地域などから支援を受けるため、あらかじめ個人情報(名前、住所、世帯の状況、障がいの状況、緊急連絡先等)を市に提供することについて、どう思いますか。(○は1つ)

「避難行動要支援者名簿」作成のために個人情報を市に提供することについては、46.9%の人が「必要な情報なので、積極的に提供してよい」、32.1%の人が「最小限の情報(名前、住所程度)ならかまわない」と回答しており、合わせると約8割の人は個人情報を提供してもかまわないと考えていることがわかる。

＜「避難行動要支援者名簿」についての考え＞

(%)

	必要な情報なので、積極的に提供してよい	最小限の情報(名前、住所程度)ならかまわない	個人情報なので知らせたくない	その他	わからない	無回答
n=209	46.9	32.1	5.3	4.8	9.1	1.9

エ 「ヘルプカード」の認知状況

問 41 東京都では、障がいのある方が災害のときや日常生活の中で困ったときに、まわりの人に自分の障がいへの理解や支援を求める際に利用できるよう、緊急連絡先や必要な支援内容などを書いておける「ヘルプカード」を配布しています。あなたは、この「ヘルプカード」のことを知っていますか。(〇は1つ)

ヘルプカードを「実際にお子さまに持たせている」人は約1割(11.5%)で、約3割はヘルプカードのことを「知らない」(28.7%)と回答している。

障がいの種類別にみると、知的障がい「実際にお子さまに持たせている」ケースは 14.6%である。

＜「ヘルプカード」の認知状況＞ (%)

	実際にお子 さまに持た せている	あることは知 っているが、 持たせてい ない	名前は聞い たことがある が、どのよ うなものかよく 知らない	その他	知らない	無回答
対象者全員 n=209	11.5	45.0	11.5	2.4	28.7	1.0

【障がいの種類別集計】

障がいの種類	n	実際にお子 さまに持た せている	あることは知 っているが、 持たせてい ない	名前は聞い たことがある が、どのよ うなものかよく 知らない	その他	知らない	無回答
身体障がい	n=54	9.3	37.0	14.8	1.9	37.0	—
知的障がい	n=137	14.6	52.6	9.5	0.7	21.9	0.7
精神障がい	n=27	11.1	40.7	14.8	7.4	25.9	—
難病	n=23	8.7	34.8	8.7	8.7	39.1	—
発達障がい	n=107	15.9	47.7	13.1	2.8	19.6	0.9
高次脳機能障がい	n=4	50.0	25.0	—	—	25.0	—
無回答	n=4	—	—	50.0	—	25.0	25.0

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

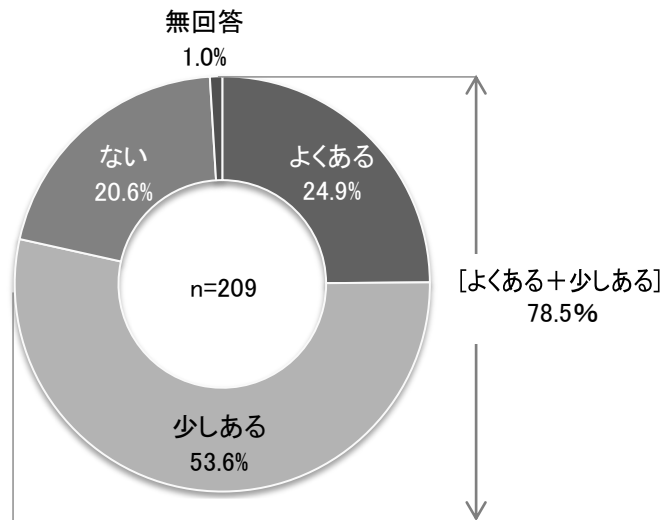
(10) 差別や権利擁護について

ア 差別を感じた経験

問 42 あなたやお子さまは、お子さまに障がいがあることで、差別を感じたり、嫌な思いをしたことがありますか。(○は1つ)

差別を感じたり、嫌な思いをしたことが「よくある」人は 24.9%、「少しある」人は 53.6%で、合わせると約8割の人には、障がいがあることで差別を感じたり、嫌な思いをした経験があることがわかる。

<差別を感じた経験>



障がいの種類別にみると、差別を感じたり、嫌な思いをした経験がある(よくある+少しある)人の割合は、知的障がいでは 83.2%、発達障がいと診断された人では 89.7%となっている。

<差別を感じた経験/障がいの種類別>

						(%)
		よくある	少しある	ない	無回答	よくある + 少しある
身体障がい	n=54	13.0	66.7	20.4	—	79.6
知的障がい	n=137	31.4	51.8	16.1	0.7	83.2
精神障がい	n=27	18.5	59.3	22.2	—	77.8
難病	n=23	13.0	56.5	30.4	—	69.6
発達障がい	n=107	38.3	51.4	9.3	0.9	89.7
高次脳機能障がい	n=4	25.0	50.0	25.0	—	75.0
無回答	n=4	—	50.0	25.0	25.0	50.0

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

イ 「差別を感じる対応」と「気づかひや思いやりを感じる対応」の内容

問 43 平成28年4月から施行された「障害者差別解消法」に関連して、今後の市の取り組みに役立てるため、実際にあなたやご家族等が体験した「差別を感じる対応」と、「気づかひや思いやりを感じる対応」についてお聞かせください。(自由記入)

「差別を感じる対応」や「気づかひや思いやりを感じる対応」については、具体的に以下のような記入があった。

① 差別を感じる対応

<外出時の周囲の人の言葉、視線、態度から>

- ・ 外出先で不必要な注目をされる。(6～11 歳男性、知的)
- ・ 公共機関でパニックになった際に、周囲の目がつらかった。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 公共の場でジロジロ見られたり、ヒソヒソ声で「ヘンな子」と言われたりする。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 差別というか、他人からジロジロと見られることでとても嫌な思いをした。(6 歳未満男性、身体)
- ・ 店やバスの中でさわいだときに、すごく嫌な顔で見られることが多い。言葉が今の5歳児の子の様に普通にしゃべれないので「何あの子」という様な目で見られる。(6 歳未満男性、知的・発達)
- ・ 道を歩いている時に、通りすがりの小学生がバカにするような態度を取った。(15～17 歳男性、知的・発達)
- ・ まわりの子供から無視される。(12～14 歳男性、身体・精神・発達)
- ・ 同じマンションの住人から露骨に嫌な顔されたり、あいさつしても無視されたりした。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ お友だち(健常者)から一線引かれた対応をされる。(15～17 歳女性、身体・難病)

<街中の環境から>

- ・ 外出時にトイレの使いやすさ、段差のなさを調べてからでないと外出する気にならないことが負担。(12～14 歳男性、身体・知的)

<公共交通機関を利用する際に>

- ・ 交通機関で冷たい視線を感じることもある。(6 歳未満男性、知的・発達)
- ・ タクシー利用時に手帳を見せると運転手の対応が変わる。悪い方に。(12～14 歳男性、知的)

<医療機関を利用する際に>

- ・ 病院、歯科などで、病気についての理解が得られなかった。(15～17 歳女性)
- ・ 主治医から生命予後の悪い病気なので治療をしないという選択肢をとることができるかと提案されたこと。(6 歳未満女性、身体・難病)
- ・ 生まれたとき、医者から異常児だと言われた。(15～17 歳女性、身体・知的)

<幼稚園・保育園の場で>

- ・ 経管栄養をつけているから普通の保育園には入れないと言われたことがある。(6 歳未満男性、身体)
- ・ 幼児期に、市内のある保育園で、一時保育の登録を電話にて予約、実際に面談の際に、子どもを見た途端、対応が急変して、何も聞かれずに「預かれません」と帰されたこと。(6～11 歳女性、知的)
- ・ 民間保育園を申し込んだが、先着順の入園をうたっていたにもかかわらず順番をとばされ、園から何の連絡もなかった。園長に直接話を聞きにいったら「人員不足、再度の申込が来たら検討するつもりだった」と。受付の時点で障がいのことを伝え受理したにも関わらず、無視された結果となり残念だった。(6 歳未満

男性、知的)

- ・ 保育園の障害児枠に毎年入れず、年中のときにはじめて枠を紹介されたが、家から遠くて送っていける場所ではなくて、あきらめた。一般の申し込みをしたら「北野ハピネスセンター」にかよっている子は一般枠では応募できないと言われた。(6～11歳女性、知的)
- ・ 幼稚園のプレに難色を示されたとき。(6歳未満男性、身体)
- ・ 認証保育園の一時預かりを利用していた頃、母親の付き添いが条件だったこと。(6歳未満女性、身体・難病)
- ・ 保育園で、1つ学年下の子との保育。(6歳未満女性、知的)
- ・ 保育園の保護者の対応。(6～11歳男性、精神・発達)
- ・ 保育園等で、ダウン症の為「どうせできないでしょ」等、言葉ではなく態度で表わされたとき。(6歳未満女性、知的)

<学校の場合>

- ・ 小学校へ入学する際、親の希望する公立学校への入学がなかなか認められなかった。(6～11歳女性、知的)
- ・ 教師(一部)(15～17歳女性、身体)
- ・ 教師(不慣れであった)、学校の保護者(単なる好奇心)。(12～14歳男性、身体)
- ・ できないことに、注目されがち。よいところも見てほしい。(担任の先生)(6歳未満男性、知的・発達)
- ・ 公立小学校の先生が、本人の混乱をとりのぞく策を講じてくれず、授業に参加させてもらえなかった。(15～17歳男性、知的・精神・発達)
- ・ 学校で通常級の生徒より、からかいを受けた。(15～17歳女性、身体・知的・発達)
- ・ 昨年、退院後、中3だったのに一度も中学校に行けなかったこと。受け入れてもらえなかった。3年何組で誰先生が担任だったのかもわからないまま卒業証書だけ教育センターの人からもらった。(15～17歳女性、精神・発達)
- ・ 中学校の卒業記念DVDで、支援学級が全く入っていなかったのには驚きました。まるでいなかったような、全く別の学校と思われている対応でした。(15～17歳女性、知的)
- ・ 市立小の特別支援学級において、学級に通うことを望んでいるにも関わらず、支援学校への転学をせまられた。「親のエゴ」「こういう子はこの学級にはNG」等教員から言われ、大変な心の傷を負った。(6～11歳男性、知的・発達)
- ・ 支援級は全校にはないので、人によっては遠い学校まで通わなくてはならない。(15～17歳男性、知的・発達)
- ・ 支援学校の入学式の祝電に三鷹市長からだけ祝電が届かなかったこと。市外の学校へ通学している子ども達は三鷹市から忘れられていると感じる。(6～11歳男性、知的・発達)
- ・ 体育等、病気が理由で参加できないものに対し、周囲の子どもから「サボリ」「ズル休み」などと言われ嫌がらせをされる、病気だと言ってもウソつきと言われクラスで孤立している。(12～14歳女性、難病)

<習い事の場合>

- ・ 習い事を申し込む際、多動について申し出たら、入会を断られたことがある。(幼少時)(15～17歳男性、精神)
- ・ 習い事など障害のことを言うと断られることが多くある。(6～11歳男性、身体・知的・難病)
- ・ 習い事に行ったとき、支援クラスに行っているからという理由で断られた。ものすごく偏見があるのだと

思い、腹立だしかった。(6～11 歳男性、精神・発達)

- ・ 水泳を習いに行ったらてんかんの子は対応できるスタッフがないので受け入れられないと。(15～17 歳女性、精神)
- ・ 聞こえないので仕方がないが、大学のオープンキャンパスで「実験は危ない」と断られる大学ばかり。(15～17 歳男性、身体)

<障がいに対する理解不足や誤解から>

- ・ 公共の場で、障がいに対する知識がない。(15～17 歳男性、知的)
- ・ 病気なの？小さいのに、かわいそうね、といわれることがよくある。他人に、かわいそうといわれるのは、本人にとっても、家族にとっても辛い。(6～11 歳女性、難病)
- ・ ヘルプカード、ヘルプマークを知っている人が少ないと感じる。(6～11 歳男性、難病・発達・高次)
- ・ 差別を感じるというより、見ためでは全くわからないため、級友などから、かわっている子、頭のわるい子とされていることがある。(6～11 歳男性、難病・発達・高次)
- ・ 見た目で見えない知的／内部障害の重複なので、過保護と思われる。透析帰り電車ですわらせるのもまわりの理解むずかしい。(15～17 歳男性、身体・難病)
- ・ 見た目が普通なので、パニックを起こしているときに、ただぐずっているようにしか思われてない。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 奇声や多動などでこちらも困っているときに「親の教育が悪い」「今すぐに止めさせろ」と言われる。(15～17 歳男性、知的・発達)
- ・ 特別支援学級に通っていることを同級生の保護者に言うと、「支援学級？」と聞かれたが何度かある。(6～11 歳女性、知的・発達)
- ・ 「障がいを持った子がいる」というだけで兄弟への偏見を持たれたことがあります。(15～17 歳男性、知的・発達)
- ・ 障害を治る病気と思っている人がまだまだ多い。親のしつけ次第で治るとか、逆にしつけが悪いせいだとか言って来る人が多い。(6～11 歳男性、知的・発達)

<その他>

- ・ インターネットの差別的書き込みがひどい。(6 歳未満男性、身体)
- ・ てんかんが精神疾患に分類されていることに違和感。最初、制度を利用するのに二の足をふんだ。(6～11 歳女性、精神)
- ・ 北野ハピネスセンター職員の方に、「うちは幸い家族にめぐまれている」と言われたこと。本心でしょうね。障害者が家族にいる人間にむかって、自分の方が幸せだと感じているようです。(6～11 歳女性、知的・発達)
- ・ 医療的ケアがあった時期にほとんどの障害者向けサービスを利用できなかった。(6 歳未満男性、身体)

② 気づかいや思いやりを感じる対応

<街中で>

- ・ 皆が普通に接してくれること。(6 歳未満女性、身体)
- ・ 自閉症のため、まわりの方々から意識して話しかけてくれている。(15～17 歳男性、知的・発達)
- ・ 「大丈夫だよ」と、見知らぬ人より声をかけられて子どもが落ちついた。(6 歳未満男性、知的・発達)

- ・ 息子が外で混乱しているとき、「何か手助けできますか？」と声をかけてくれたとき。(15～17 歳男性、知的・精神・発達)
- ・ 白杖を持って歩く息子を見てさっと道をあけてくれる、白杖についてお子さんに説明してくれる。(6～11 歳男性、身体・知的・難病)
- ・ スターバックスで大人の飲み物だけ注文したときに(子供には水筒があったため)「お子様はお紅茶などはお飲みになりますか？」と試飲用の飲み物をすすめてくださった。(12～14 歳女性、身体・知的・発達)

<公共交通機関を利用する際に>

- ・ ヘルプカードをつけてベビーカーで電車に乗ったら車いすスペースをあけてくれた。(6 歳未満男性、身体)
- ・ 空港で子どもがパニックで動けなくなったときに、すぐにスタッフが車いすを運んできてくれた。(15～17 歳男性、知的・発達)
- ・ 電車内で子どもが落ち着かずにいたときに席をゆずっていただけました。(15～17 歳男性、知的・発達)
- ・ バスの乗り下りの際乗客の方や運転手さんに手伝ってもらえたりする。(6 歳未満男性、身体)
- ・ バスの運転手さんがバスに乗るとき、めんどくさがらずに笑顔で対応してくれる。(6～11 歳男性、知的)
- ・ 通学で違うバスに乗ってしまったときに、運転士の方が終点で気付いて下さり、学校に連絡した下さったこと。連れてきて頂いて、行方不明にならずに済みました。(15～17 歳女性、知的)
- ・ 小田急バスに乗るとき、娘が定期を忘れた日も、いつもと同じように乗せていただきました。小銭等持たせてないので、とてもありがたかったです。(15～17 歳女性、身体・知的)

<医療機関を利用する際に>

- ・ 医師に相談し、自閉症であると話し(見た目ではわかりにくい子なので)、看護婦の方たちが優しく子どもに接してくれるとき。(12～14 歳女性、知的・発達)
- ・ 病名を知っているドクターから、「今までたいへんだったね」と言われた。(15～17 歳女性)

<保育園・幼稚園・学校の場で>

- ・ 現在通っている幼稚園の先生方がとても良く見ていて下さり、安心して子どもを預けることができる。(6 歳未満男性、知的)
- ・ 幼稚園に通っていたとき、できると信じて他の子どもの中で過ごせるように適切なサポートをしてくれ、皆に普通に受け入れられたこと。(6 歳未満男性、知的)
- ・ 教師(一部)(15～17 歳女性、身体)
- ・ 私立学校では、本人の困り感に対して、先生や養護教諭が適切に対応してくれている。(15～17 歳男性、精神)
- ・ 小学校では、支援学級の家庭は学区外であったり、介助の負担を考慮ということでPTAの役や、各家庭の手伝いの一部を免除してもらっていることなど。(6～11 歳女性、知的)
- ・ 学校で、同じ支援級クラスメイトが通常級の子にからかわれた。このとき(後?)先生がみんなの前で先徒を激しくおこってくれた。(15～17 歳女性、知的)
- ・ 学校生活の職員の手厚い対応。(15～17 歳女性、知的・精神・発達)
- ・ 学校の先生方は、根気良く対応してくれます。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 学校の先生から、「困まったことがあったら何でも言って下さい」と言われたとき。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ プール等、発作がおきると危ないことが考えられるので学校に伝えて、ラッシュガードが目立つようにした

り、暗い場所での映像を見る授業では配慮していただいていた。(6～11 歳女性、精神)

<近隣・友人等の対応から>

- ・ 障害があることがわかって、気にすることなくつきあってくれる友人が複数人いること。(15～17 歳女性、身体・難病)
- ・ 理解のあるご近所の方はいつも応援してくれます。(6～11 歳男性、知的)
- ・ 友人が、ふつうの子に接するように接してくれた。(6 歳未満男性、身体)
- ・ 近所の友人や通園先では、障害のことなど関係なく、ごく普通に接してもらっている。(6 歳未満男性、知的)
- ・ マンションの住人や散歩中の人から、通学途中「おはよう」や「いってらっしゃい」などの声かけがあった。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 支援学校に通い始めてから、スクールバス停までの道のりで、近所の方や小学生と挨拶する機会が増え、子どもも挨拶をすすんでするので、地域の方にも受け入れてもらえるように感じる。(12～14 歳男性、知的・精神・発達)
- ・ 近所のコンビニで買い物をする際、レジの方はいつも笑顔で待っていてくれる。(15～17 歳男性、知的・高次)
- ・ 地域の行事など集団に参加する際、他のお子さんと同様に声を掛けてくれる。(6～11 歳男性、知的)
- ・ 公園であそばせているとき、小さい子ども達(我子より1～2つ上)に「仲間に入れてあげるよ」と言われたことがあります。(15～17 歳男性、知的・発達)

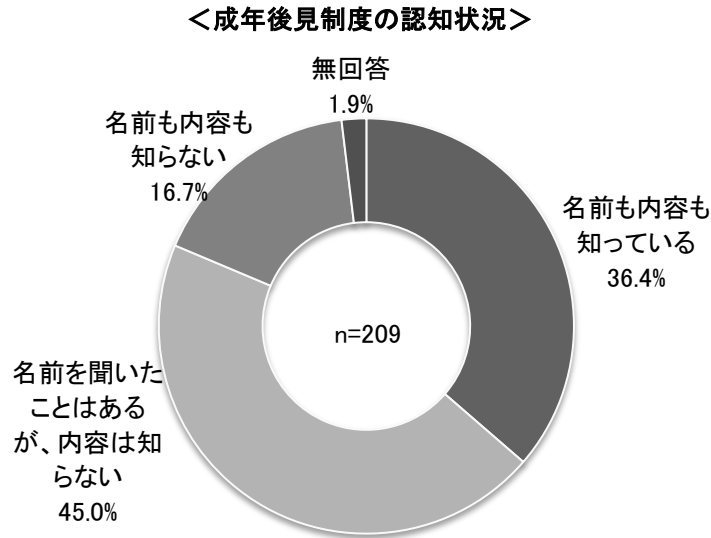
<その他>

- ・ 子どもにかかわる方々(先生・ヘルパーさん、デイサービスの方々)から自分と子どもを両方認めていただけたこと。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 同じ様な経験をした人がアドバイスしてくれる。(15～17 歳女性、精神)
- ・ 子育て支援センターの方が学校長へ「柔軟な対応を！」とお話してくださいました。保護者側から言いづらい言葉なのでとても助かりました。(12～14 歳女性、知的・発達)
- ・ 障害を知らせた上で、その子に合った対応をしてくれる(理容室)(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 三鷹に越して来てから、嫌な思いは1度もしたことがないです。小学校のお友達も中学校のお友達も思いやりのある優しい子が多く娘も楽しく過ごしています。(12～14 歳女性、身体)
- ・ デイサービスのスタッフは、仕事が遅くなったときに融通をきかせてくれたり、話をきいてくれたりした。(6～11 歳男性、精神・発達)
- ・ 息子のことで夫婦間の意見の違いによるいさかひがあったとき、放課後デイのスタッフさんが親身になって話を聞いてくれるので、救われています。(15～17 歳男性、知的)
- ・ 手話通訳が市役所にいたこと。(6～11 歳男性、身体)

ウ 成年後見制度の認知状況

問 44 成年後見制度とは、知的障がいや精神障がいなどの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。(○は1つ)

成年後見制度について「名前も内容も知っている」人は 36.4%で、16.7%は「名前も内容も知らない」と回答している。



エ 成年後見制度の利用意向

問 45 お子さまに、成年後見制度を活用させたいと思いますか。(○は1つ)

成年後見制度の活用意向については、約6割の人が「今は必要ないが、将来必要になったら活用したい」(59.8%)と回答している。

障がいの種類別にみると、知的障がいでは約7割が「今は必要ないが、将来必要になったら活用したい」(69.3%)と回答している。

<成年後見制度の利用意向> (%)

		すでに活用している	今は必要ないが、将来必要になったら活用させたい	活用させたいとは思わない	わからない	無回答
対象者全員	n=209	—	59.8	6.7	31.1	2.4
【障がいの種類別集計】						
身体障がい	n=54	—	42.6	16.7	37.0	3.7
知的障がい	n=137	—	69.3	2.9	26.3	1.5
精神障がい	n=27	—	63.0	3.7	33.3	—
難病	n=23	—	47.8	8.7	43.5	—
発達障がい	n=107	—	72.0	4.7	22.4	0.9
高次脳機能障がい	n=4	—	75.0	—	25.0	—
無回答	n=4	—	50.0	—	—	50.0

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

(11) 将来の希望等について

ア 将来、子どもにさせたい暮らし方

問 46 お子さまに、将来、どのような暮らしをしてほしいと考えていますか。(〇は1つ)

将来、子どもにさせたい暮らし方としては、「結婚して家庭をつくって暮らしてほしい」と回答した人が37.8%と最も多く、次いで「グループホームなどで暮らしてほしい」が29.2%で続いている。

＜将来、子どもにさせたい暮らし方/対象者の年齢別＞ (%)

		家族とい つしよに 暮らして ほしい	グループ ホームな どで暮ら してほし い	障がいの ある人が 入所する 施設など で暮らし てほしい	結婚して 家庭をつ くって暮 らしてほ しい	一人で暮 らしてほ しい	その他	無回答
対象者全員	n=209	13.4	29.2	4.8	37.8	4.8	5.3	4.8
6歳未満	n=39	15.4	25.6	—	43.6	7.7	7.7	—
6～11歳	n=69	11.6	30.4	5.8	33.3	4.3	4.3	10.1
12～14歳	n=34	14.7	32.4	2.9	35.3	2.9	8.8	2.9
15～17歳	n=65	13.8	27.7	6.2	41.5	4.6	3.1	3.1
無回答	n=2	—	50.0	50.0	—	—	—	—

障がいの種類別にみると、知的障がいでは、「グループホームなどで暮らしたい」と回答した人が38.7%と最も多くなっている。

＜将来、子どもにさせたい暮らし方/障がいの種類別＞ (%)

		家族とい つしよに 暮らして ほしい	グループ ホームな どで暮ら してほし い	障がいの ある人が 入所する 施設など で暮らし てほしい	結婚して 家庭をつ くって暮 らしてほ しい	一人で暮 らしてほ しい	その他	無回答
身体障がい	n=54	16.7	25.9	1.9	44.4	3.7	3.7	3.7
知的障がい	n=137	13.9	38.7	6.6	24.8	2.9	5.8	7.3
精神障がい	n=27	3.7	18.5	—	63.0	11.1	3.7	—
難病	n=23	17.4	13.0	4.3	47.8	—	13.0	4.3
発達障がい	n=107	10.3	34.6	8.4	30.8	4.7	4.7	6.5
高次脳機能障がい	n=4	25.0	50.0	—	—	—	25.0	—
無回答	n=4	50.0	25.0	—	25.0	—	—	—

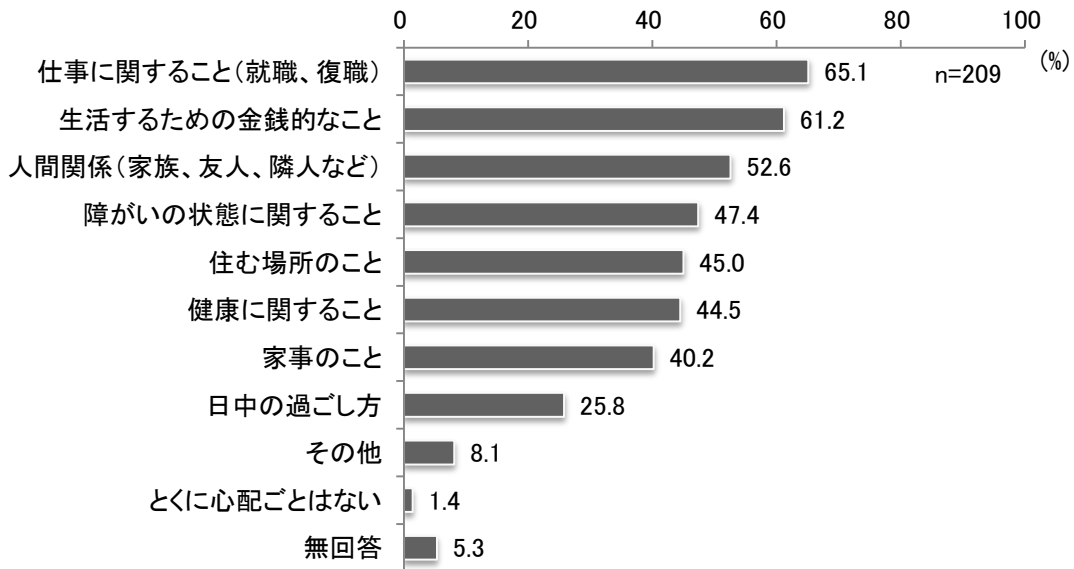
※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

イ 希望する暮らしをする際に心配なこと

副問 46-1 お子さまが、問 46 のような暮らしをするにあたっては、どのようなことが心配ですか。
(〇はいくつでも)

希望する暮らしをする際に心配なこととしては、「仕事に関すること(就職、復職)」をあげる人が 65.1%と最も多く、次いで「生活するための金銭的なこと」(61.2%)、「人間関係(家族、友人、隣人など)」(52.6%)と続いている。

＜希望する暮らしをする際に心配なこと＞



障がいの種類別にみると、知的障がいでは、「生活するための金銭的なこと」をあげた人が 65.7%と最も多くなっている。

＜希望する暮らしをする際に心配なこと／障がいの種類別＞ (%)

	仕事に関すること(就職、復職)	生活するための金銭的なこと	人間関係(家族、友人、隣人など)	障がいの状態に関すること	住む場所のこと	健康に関すること	家事のこと	日中の過ごし方	その他	とくに心配ごとはない	無回答
身体障がい n=54	64.8	46.3	42.6	63.0	46.3	61.1	35.2	29.6	18.5	1.9	1.9
知的障がい n=137	60.6	65.7	54.7	44.5	49.6	39.4	45.3	31.4	8.8	0.7	6.6
精神障がい n=27	70.4	55.6	66.7	44.4	29.6	48.1	44.4	18.5	—	3.7	7.4
難病 n=23	56.5	52.2	39.1	73.9	39.1	78.3	30.4	26.1	13.0	—	—
発達障がい n=107	66.4	69.2	57.9	43.0	43.9	34.6	44.9	27.1	6.5	—	5.6
高次脳機能障がい n=4	75.0	25.0	25.0	50.0	50.0	75.0	50.0	25.0	—	—	—
無回答 n=4	100.0	100.0	100.0	25.0	100.0	50.0	25.0	25.0	—	—	—

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

「その他」としては、具体的に以下のような記入があった。

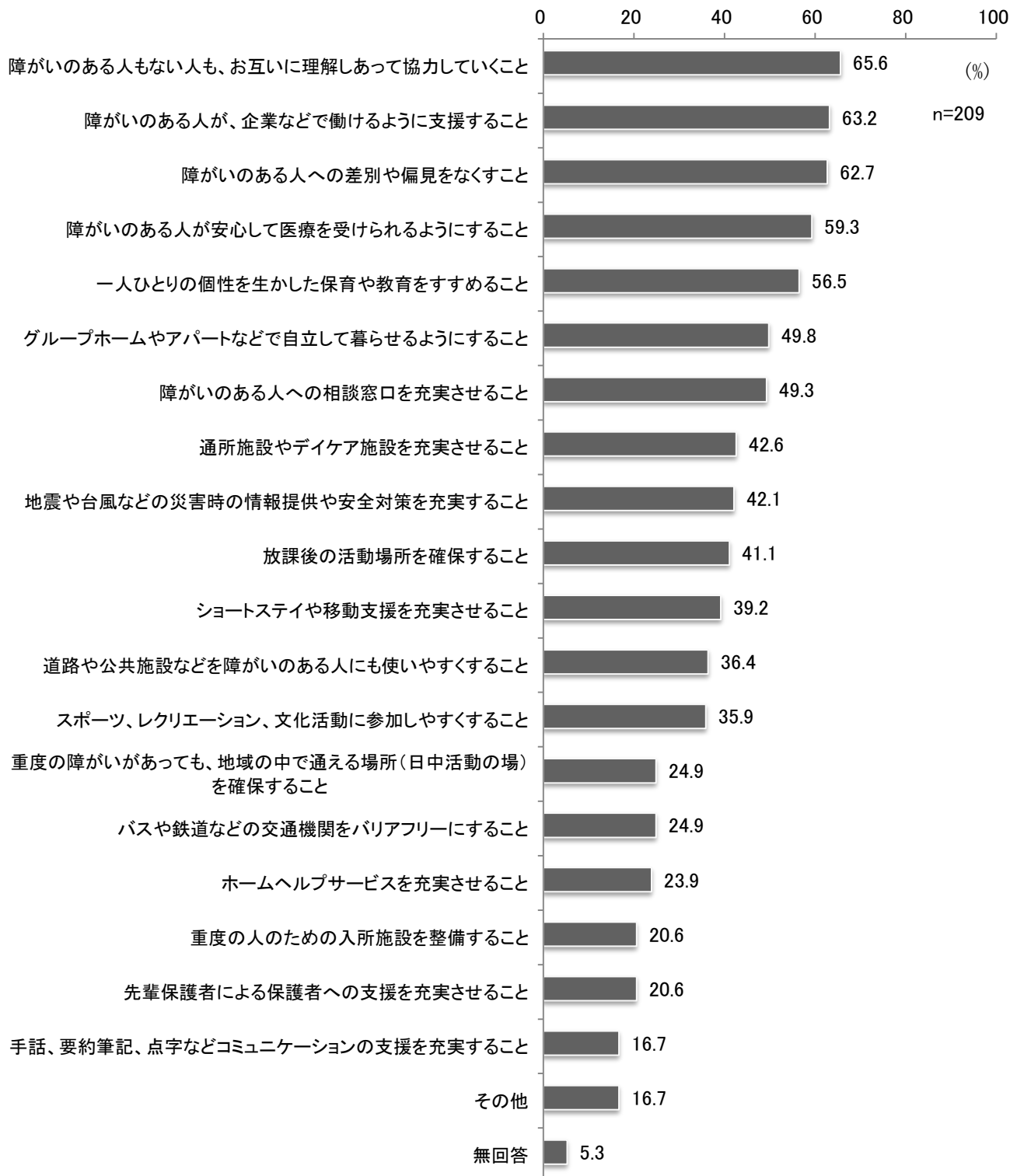
- ・ 親の死んだ後どうなるのか。(15～17 歳女性、身体・知的)
- ・ 入れるグループホームがあるかどうか。(6 歳未満男性、身体)
- ・ 希望する施設に入所できるかどうか。(6～11 歳男性、知的・難病)
- ・ 適正な施設運営なされているかのチェック機能がないこと。(12～14 歳男性、身体・知的)
- ・ きょうだいへの負担(金銭的・精神的)。(15～17 歳女性、身体・知的・発達)
- ・ 家族の健康(6 歳未満男性、身体・難病)

ウ 今後、市に重点的に進めてほしい課題

問 47 障がいのある方への取り組みとして、今後、三鷹市に重点的にすすめてほしい課題はどれですか。
(〇はいくつでも)

市に重点的に進めてほしい課題としては、「障がいのある人もない人も、お互いに理解しあって協力していくこと」をあげる人が 65.6%と最も多く、次いで「障がいのある人が、企業などで働けるように支援すること」(63.2%)、「障がいのある人への差別や偏見をなくすこと」(62.7%)と続いている。

＜今後、市に重点的に進めてほしい課題＞



「その他」としては、具体的に以下のような記入があった。

<福祉サービスの充実について>

- ・ 医療的ケアがあっても、受けられるサービスを増やして欲しい。(6歳未満男性、身体)
- ・ ブレイルセンス(音声点字携帯情報端末)の支給対象を視覚障害者にも広げてほしい。(12～14歳女性、身体)
- ・ 人工内耳への助成。(6歳未満女性、身体)
- ・ 夜の訪問看護を行ってほしい。まとまった時間入ってほしい。(6歳未満女性、身体)
- ・ 移動支援を余暇だけでなく、通院や公共交通機関利用のときも使えるようにしてほしい。(6～11歳男性、知的・発達)
- ・ 親が病気やケガのときに安心して泊まりで頂けられる先ができること。(6～11歳女性、身体・知的)
- ・ 障がいがある人が暮らせる施設(入所施設)を増やすこと。(15～17歳男性、知的・発達)
- ・ 軽度への支援を増やして欲しい。軽度ゆえに支援がうけられなくて困っている。(6～11歳男性、精神・発達)
- ・ 計画相談員またはケアマネージャー的役割の方の増員。(6歳未満女性、身体・難病)

<情報提供の充実について>

- ・ 放課後デイサービスなどについての情報をわかりやすくまとめて提供してほしい。(12～14歳男性、精神・発達)
- ・ 情報の提供をもっと積極的に。サービス・税金他、総合的に手続き等をサポートして頂けると助かる。(6歳未満女性、知的)
- ・ 自宅からネットで申請や、更新時期のお知らせが届くと利用しやすくなる。(6～11歳女性、精神)

<保護者・介護者への支援について>

- ・ 介護者のケア(カウンセリング)、休息日を作る。(預け先の充実)(6～11歳女性、身体・知的)
- ・ 自閉症スペクトラムは3才前後ぐらいに告知されるので、親子への心理的ケアをお願いしたい。(6～11歳女性、知的・発達)
- ・ 家族支援。(12～14歳男性、身体・知的)
- ・ 母親が自由に働けるよう支援してほしい。「障がい児の母親は働けない」なんておかしい。(6歳未満男性、知的・発達)

<親亡きあとの支援について>

- ・ 親が先に「安心して」死ねるようにしてほしい。(15～17歳女性、知的)
- ・ 親なきあとの生活を、東京都外でなく、住み慣れた地域でできるようにすること。(15～17歳女性、知的)
- ・ 親なきあとの不足のない生活が保証されること。(6～11歳女性、知的)

<生活環境の整備について>

- ・ 公園や遊べるような施設をつくってほしい。(6歳未満男性、身体)
- ・ 狭い歩道をもっと広めて通りやすくしてほしい。自転車が自由すぎてキケンで怖い。(15～17歳女性)
- ・ 鉄道利用時、本人は子供料金の半額だが、そのように購入できるボタンが券売機になく不便。(6～11歳女性、身体)
- ・ バリアフリーリフォーム支援。(15～17歳女性、身体・知的)

<療育環境の整備について>

- ・ 就学後～成人までの療育相談や療育サービスが全くないので設置して欲しい。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 共働きでも、対応できるような幼稚園(療育施設)があると良い。(6 歳未満男性、身体・知的)
- ・ 医療的ケアが常時必要な重度障がい児の通える、発達支援施設や保育園の設立。(6 歳未満女性、身体・難病)
- ・ 重度心身障害児の保育事業保育園での受け入れをやってほしい。(6 歳未満男性、身体・難病)
- ・ 未就園児の時から、療育的な支援と並行して地域の中に友達ができるようにしてほしい。(6～11 歳女性、知的・発達)

<教育環境の整備について>

- ・ 住んでいる地域で小・中・高の特別支援学校を作してほしい。(6～11 歳男性、身体・知的・発達)
- ・ 医療ケアが必要な子でも安心して学校へ通えるようスタッフなど受入体制をつくってほしい。(6 歳未満男性、身体・難病)
- ・ 教育機関などへの働きかけをしてほしい。(内部疾患は健常児と区別がつかず無理をさせられる。)(6 歳未満、身体)

<就労環境の整備について>

- ・ 働く場を増やしてほしい。(15～17 歳男性、知的・発達)

<共生社会の実現に向けて>

- ・ 障がいがあっても、可能性を信じてやりたいことをチャレンジしていける社会づくり。(6 歳未満男性、知的)
- ・ 小さいうちから、障がい者と共に過ごすなどの経験を交えた教育を、義務教育に盛り込む必要がある。(6～11 歳男性、知的・難病)

<その他>

- ・ 卒業後の余暇活動の充実。(12～14 歳男性、身体・知的)
- ・ 災害時に電源を供給できる避難場所を作って。(6 歳未満男性、身体・難病)
- ・ 手帳がとれないまま、特別支援教育をおえて、障害者雇用や、就労支援を受けられずに、社会に出ていく子が増えていくことがとても心配。(12～14 歳男性、精神・発達)

(12) 意見・要望等

調査の終わりにあたり、市の政策や生活ニーズについての意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、数多くの意見・要望が寄せられた。内容はきわめて多岐にわたっており、本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介することとする。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を、できる限り原文に近い表記で紹介するように心がけた。

<相談、手続き、情報提供に関すること>

- ・ 市役所以外にも市政窓口など相談窓口があると助かります。(6～11 歳男性、難病・発達・高次)
- ・ 相談窓口は時間外(早朝、夜間等)、土日祝の対応をして欲しい。(12～14 歳男性、知的)
- ・ 窓口が、いつも混んでいて(感謝しつつも)もっと人員を配置して欲しい。(6～11 歳男性、精神・発達)
- ・ 市の窓口の人は、相談にいつでも、機械のような対応で、他人事だという感じで、親身になって対応してくれない。もっと、接極的に、色々なことを、調べてくれる対応をしてもらいたい。(6～11 歳女性、難病)
- ・ 本人のことをよく知る主治医のように、担当の相談員のような立場の人がいると助かります。(15～17 歳男性、知的・発達)
- ・ もっと気軽に相談できる人(ケースワーカー)がいるとよいと思う。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 市のホームページで支援等にどんなものがあるのか調べるのに苦労しました。わかりやすくまとまっているページがあるといいなと思いました。(15～17 歳男性、知的・発達)
- ・ 障がい者が利用できるサービスを市の方から知らせていただくと助かります。(12～14 歳男性、精神・発達)
- ・ 福祉サービスの紹介を具体的に教えてほしい。自分で聞かないとわからないことが多く、サービスを利用したいのにできなくなってしまう。(6～11 歳男性、知的)
- ・ 情報公開が無いのか、あまり目にとまらないので、どういう1年間を過ごすのか色々市報にのせてほしい。(6 歳未満男性、身体)
- ・ 制度と用語が複雑で実際にどのサービスが適用になるのか、利用するにはどうしたらいいのかがわかりにくい。市役所の担当者がサポートして、個人に合ったオーダーメイドのサービスプランを作成してほしい。(6 歳未満男性、身体・難病)

<各種サービスに関すること>

- ・ 障がいを持っている人たちの現状を正しく把握し、それぞれに合ったニーズに援助してほしい。(15～17 歳男性、身体)
- ・ 自分が病気したとき、近くに親族もおらず、主人の助けも受けられないときに、すぐに対応してくれるサービスがあると助かります。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 自宅以外で過ごせる場所を確保する、重度障害児(者)向けのサービスを充実させてほしい。(12～14 歳女性、身体・知的・発達)
- ・ 一人暮らしをサポートするなど、ホームまではいかないが自立ができるサービスの充実を希望。(6～11 歳女性、知的・発達)
- ・ ヘルパー制度を利用しやすくしてほしい。(6 歳未満男性、知的)
- ・ ショートステイ施設など、いざというときの短期入所、一時預かりなどを増やして欲しい。(6～11 歳女性、知的)

- ・新しくできる総合福祉施設でもショートステイ事業を取り入れていただきたいです。(6～11 歳女性、身体・知的)
- ・障がい児を育てながら、高齢の両親の介護も必要になってきているので、いざというときのショートステイサービスをもっと拡充し、利用しやすくしてほしい。(6～11 歳男性、身体・知的・発達)
- ・短期入所施設がなく、ぴあも予約がいっぱいで大変困っております。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・市内に安心して預けられる短期入所(障害児向け)をつくっていただけると助かります。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・市のサービスでガソリン代の補助があるが、1世帯に障がい児が2人いても1ヶ月のガソリンの使用量は変わらない。できればガソリン代の補助だけではなくタクシー券を支給してくれる等のサービスがあるとよい。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・通院の交通費が多くかかるので、タクシー券やガソリン代の支給金額を上げて欲しい。(6 歳未満女性、身体)
- ・移動支援を利用させていただいているが、通学用にも利用できるようにしてほしい。(12～14 歳女性、身体・知的・発達)
- ・移動支援を余暇目的以外でも使えるようにしてほしいです。通院などに親子で使えれば、精神的、経済的にかなり楽になると思います。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ガイドヘルパーをお願いすることも多いが、毎月、もう少し時間が多く支給されたらよいのにといます。(6～11 歳男性、知的)
- ・福祉訪問員制度は素晴らしいと思うが、実際には訪問員が見つからず、利用できていない人がほとんど。(6～11 歳女性、知的)
- ・福祉訪問員をボランティアとして登録して案内するのはどうか。(6～11 歳男性、知的)
- ・三鷹市、調布市、狛江市の児童、生徒が在籍する調布特別支援学校に通学している。今年4月より三鷹市のみが放課後等児童デイサービスの支給日数を一律上限23日に制限した。三市の児童、生徒が、在籍する都立の特別支援学校でこのような格差があってはならないと思う。(6～11 歳男性、知的・難病)
- ・放課後デイを利用しているが、次男もくるみ幼稚園で、障がい児が2人いるので受給者証の放課後デイと児童発達支援の日数を増やしてほしい。(6～11 歳男性、知的)
- ・重度知的にもオムツ代補助やオムツ支給などおねがいをしたいです。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・就学後のST・OT・PTを充実させてもらいたい。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・子が支援を受けるにあたり、所得制限があるのは不公平に感じる。(12～14 歳男性、精神・発達)

<施設の整備に関すること>

- ・軽度知的障害者のグループホームを作って欲しい。(6～11 歳女性、知的・発達)
- ・グループホーム・就労支援施設を増やして、障害のある人でも地域で暮らせるようにして欲しい。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・あと親が年を老いて見られなくなってから、グループホームへ入れるのではなく、もう少し早くお互いの人生を歩んでいけるよう、グループホームの数が増えることを願います。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・障がい者の暮らしの場(入所施設・グループホーム等)と、働く場所(企業・福祉施設・作業所)の確保と増設を早急にお願いします。(15～17 歳男性、知的・発達)
- ・通所施設やデイケア施設の充実。(15～17 歳女性、身体・知的)
- ・B型作業所を増やしてほしい。家から遠くなると通うのも大変だし、震災等交通がマヒした場合が心配。(15～17 歳女性、身体・知的)

- ・ 北野ハピネスセンターのような訓練施設を、もう少し市の中心部にほしい。(6～11 歳女性、知的・発達)
- ・ 障害者用プールを作ってほしい。(6～11 歳女性、身体・知的)

<経済的な援助に関すること>

- ・ 経済的に苦しいので、補助や手当などの金額を増やしてほしい。(12～14 歳女性、難病)
- ・ 療育費用が年間60～70万円かかります。控除できたり、何らかの支援が受けられると良いです。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 子ども医療費(中学校卒業前まで)負担を所得制限なしにしてほしい。(6 歳未満男性、知的・発達)
- ・ 障害児に支給される手当(特別児童扶養手当など)の所得基準が低すぎる。(6～11 歳女性、知的)

<療育、教育に関すること>

- ・ 重度障がい児の通える保育園や発達支援施設を設立していただきたい。(6 歳未満女性、身体・難病)
- ・ 重度の障がいがあっても預けられる保育所を増やして欲しい。(6 歳未満女性、身体)
- ・ 市には医療ケアのある子どもの幼児園への受入がなく、あきやまケアルームへ通園している。看護師などの人件費や職員への理解、研修など大変な面があると思うが、どんな人も安心して暮らせるようにしてほしい。(6 歳未満男性、身体・難病)
- ・ くるみ幼児園に通っているが子どもだけの送迎があると便利。(6 歳未満男性、知的)
- ・ 今あったらよいと感じているのは、義務教育が始まってからも療育が受けられることです。(6～11 歳男性、知的)
- ・ 教師に病気の特徴を理解してほしい。(12～14 歳女性、難病)
- ・ 固定級をかたくなに嫌がる自閉症の子の行き場がない。メンタルが敏感で色々なことを感じとりすぎる。(6～11 歳女性、知的・発達)
- ・ 各小中学校に固定の情緒学級を作って。固定の知的と情緒でどのような違いがあるかご存知ですか。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 都立の特別支援学校に通っている。高校生はスクールバスがなく、一人通学もできない。親が働いているので、付き添いを頼みたくても使える支援制度がありません。何とかして欲しいのが現状です。(15～17 歳男性、知的)
- ・ 三鷹市は支援学校と交流などしてないことがさびしいです。(12～14 歳女性、知的・発達)
- ・ 調布市や、狛江市の学校は支援学校の交流で行き来しているが、三鷹市だけは形だけの副籍交流(個人のはするが、学校同士の交流はしないのはなぜなのか。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 特別支援学校から副籍交流で地域の学校と交流しているが、年3回と頻度が少ないので増やしてほしい。(6～11 歳男性、身体・知的・発達)
- ・ 小学校(地域の公立小)に、以前からトイレの柵設置をお願いしているが、まだできていない。自己導尿時、本人も困っている様子。(6～11 歳女性、身体)
- ・ 第一次避難場所の井口小学校のバリアフリー化、洋式トイレを増やす、できれば車椅子でも通常の授業を受けることが十分に可能な子どもに地域で教育を受けるチャンスを作って欲しいです。(6～11 歳男性、身体・難病)
- ・ 重度の障害があっても、近所の小学校へ毎日通い、障害の無い子ども達に囲まれて成長していけるようにサポートをしていただきたいです。(15～17 歳男性、知的・高次)
- ・ 現在の支援学級では、教員の指導力の差が大きいと感じる。支援級の教員が障害や福祉についてどれくらい理解しているか、教育委員会でもよく把握してほしいと思う。(12～14 歳男性、精神・発達)

- ・ 特別支援学級の教員の質の向上、教育、増員を切に望みます。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 支援学級の教師のレベルUPを。障害を持つ生徒に対して、特徴をとらえた教育がもつとできる知識を身につけて欲しい。(6～11 歳女性、知的・発達)
- ・ 障がいを持つ子が行きやすい児童館があるととても助かります。(6～11 歳男性、知的)

<就労に関すること>

- ・ 市役所内でも障がい者が働ける仕事、場所を作ってほしいと思います。(15～17 歳男性、知的)

<障がいに対する理解や権利擁護に関すること>

- ・ すべての人に差別や偏見をなくすよう、大々的なPR活動をしてほしい。(6 歳未満男性、知的)
- ・ 「障害者差別解消法」が施行されましたが、相変わらず差別を感じます。(15～17 歳男性、知的)
- ・ 小さいときから、社会全体で「教育」することで、障がいに対する理解が深まり、皆が暮らしやすい三鷹市になってほしいと思います。(6～11 歳女性、知的)
- ・ 障がいへの差別をなくすためには、一般の子どもに子どもの頃の教育をきちんとすることも必要だと思う。(6～11 歳女性、知的)
- ・ 幼稚園、保育園でももう少し交流保育の機会が増えると地域のお母さん方の理解も少し得られる。(6～11 歳男性、知的)
- ・ 「発達障害」という言葉とその意味を、ひとりでも多くの市民が共有できるよう、政策を進めてほしい。(6～11 歳男性、知的・発達)
- ・ 発達障がいなど見た目に障がいとわからない障がいの場合、周囲の方々の理解と応援は不可欠です。(15～17 歳男性、知的・精神・発達)
- ・ 市バスや小田急バスの職員は、手帳割引制度を知らない人が多い。運転手には周知してほしい。(6～11 歳女性、身体・知的)

<非常時、緊急時の対策に関すること>

- ・ 災害などの際に、子どもの情報は提供していても実際、具体的に誰がどのように確認や救助をしてくれるのかよくわからないので心配です。(6～11 歳女性、知的)
- ・ 日本の消防法では音でしか知らせていないが、匂いや光等で知らせる機器があり、住戸への助成を行なっているところもあります。それらの設置の助成や(早急に)公共の場所への設置をしてほしい。(6 歳未満女性、身体)

<将来の不安などに関すること>

- ・ 親が死んでも、子どもが安心して暮らせる体制があればと切望します。(15～17 歳、知的・発達)
- ・ 子どもが今3才なのでまだどうなるかわからないですが、将来、私達(親)が先に死ぬことは確かで、一人にしてしまうことがとても心配です。(6 歳未満男性、知的・発達)
- ・ 子どもは視力障害と知的障害と重複障害を持っています。今は学校に通っているので居場所がありますが高等部を卒業した後、重複障害を受け入れてくれるところがあるのか不安です。(6～11 歳男性、身体・知的・難病)
- ・ 学校卒業後の障がい者の活動場所(夕方・土日)が増えてくれると良いと思います。(15～17 歳男性、知的・発達)

<家族・介護者への支援に関すること>

- ・ ケアしている家族に対してのケアも充実させてほしい。(6～11 歳男性、知的・発達)

- ・ 一人でケアしている親の精神的負担は大きいので、心理士さんをつけてもらったり、してほしい。(15～17歳女性、精神・発達)
- ・ 障害児の世話と親の介護が同時という方もいると思うので、助けていただける何かがあると嬉しいです。(6～11歳女性、知的・発達)
- ・ 障がい児者への支援は、家庭教師だったり、母親の家事負担を少なくするものだったり、そういうことが、一番心が軽くなると私は思っています。(15～17歳男性、知的・発達)
- ・ 子どもの年齢に合わせてグループ活動、兄弟の会などを作ってほしい。兄弟に自閉症の悩みを共有できる環境を作りたい。(6歳未満男性、知的・発達)

<人材育成に関すること>

- ・ 24時間医療的ケアが必要な子に対して、母が居なくても処置のできるスタッフの育成。(具体的に人工呼吸器の設定を変更する権限のある方。)(6歳未満女性、身体・難病)

<アンケートに関すること>

- ・ このようなアンケートを行っていただけるだけで、ありがたく感じます。(6歳未満男性、身体)

<その他>

- ・ 障害があろうがなかろうが、安心して家族で、また1人でも暮らしていける、住みやすいまちを希望します。(15～17歳女性、知的・発達)
- ・ 住み慣れたところで自分が一人で活動できる範囲、親の負担にならない距離に生活環境をととのえてあげられるとこれからの不安が減ると思います。(15～17歳女性、知的)
- ・ 雨の日に行けるような室内遊びの場所がほしいです。(6歳未満男性、身体)
- ・ 障害児者向けのスポーツやレクリエーションのカリキュラムをもっとつくって欲しい。(12～14歳男性、知的・精神・発達)
- ・ 障害がある方がバスや鉄道を利用するにあたり、乗り換え等(キップ購入含む)をわかりやすくしてほしい。(15～17歳男性、知的・発達)
- ・ 子どもが病気になって病院へ連れて行くとき、病人を乗せてくれるタクシー会社はあるのでしょうか。救急車を呼ぶほどではないし、でも吐きそうだと、乗車を嫌がられるだろうし。(12～14歳女性、知的・発達)

